

「立山黒部」世界ブランド化推進会議

第1回会議



平成29年6月1日
富山県
観光・交通・地域振興局
生活環境文化部

1. 会議の趣旨

- 訪日外国人や個人旅行客の増加など「立山黒部」を取り巻く状況が大きく変化している中、「立山黒部」が日本はもとより、世界中の人々に「行ってみたい」「また来たい」と思ってもらえる観光地となるよう、「世界ブランド」としてさらなる高みを目指すための方策を検討するため、平成28年11月に「『立山黒部』の保全と利用を考える検討会」を設置した。
- 検討会において、現状と課題の整理や課題解決に向けたプロジェクト案などについて、環境保全と観光振興の両立に配慮しながら議論を重ね、「『立山黒部』の今後の方向性」や、その方向性に基づき検討を進めるべき「28のプロジェクト」をとりまとめたところである。
- 本会議では、「28のプロジェクト」の実現に向け、各プロジェクトの進捗管理やブラッシュアップ、必要に応じて新たなプロジェクトについて議論することとしたい。あわせて、安全性や法令に関する課題があり行政とともに具体的な詰めを行うことが必要なプロジェクトや関連する事業者が共同して実施することが必要なプロジェクトについては、ワーキンググループを設け、検討を進めることとしたい。

次頁から記載する各プロジェクトのスケジュールイメージは、安全性や環境への影響など各プロジェクトを実施するうえでクリアしなければならない課題が解決された場合のスケジュールを参考までに記載したものである。

上質な滞在環境の整備 (P4~16)

- 01 混雑スポットにおける食事・休憩スペースの拡充
- 02 アルペンルート of 営業時間拡大
- 03 乗車整理券の配布
- 04 高原バス等のWEB予約システム
- 05 宿泊施設の整備
- 06 滞在プログラムの充実

新しい魅力の発掘・磨き上げ (P18~34)

- 07 アルペンルート of 早期開業
- 08-09 冬季営業 (アルペンルート、黒部峡谷鉄道)
- 10 ヘリスキー of 企画・実施
- 11 黒部ルート見学会 of 旅行商品化
- 12 カルデラ体験学習会 of 旅行商品化

顧客層にあわせた受入環境の整備 (P36~43)

- 13 新しいマーケット (欧米豪) of 認知度向上
- 14 多言語表記・案内 of 充実
- 15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリア of 解消
- 16 ユニバーサルサービスの推進

周遊性の確保 (P45~49)

- 17-19 ロープウェイ of 整備
- 20 宇奈月温泉街 of 賑わい創出

自然環境の適正利用 (P51~55)

- 21 登山道 of 整備
- 22 環境意識 of 啓発

自然環境の保全 (P57~64)

- 23 山岳トイレ of 整備
- 24 外来植物除去活動 of 推進
- 25 利用調整地区 of 導入の検討
- 26 環境保全経費 of 受益者負担の在り方の検討

ライチョウの保全 (P66~67)

- 27 とやま of ライチョウサポート強化、生息状況調査

利用者の安全確保 (P69~72)

- 28-1 雪崩事故対策
- 28-2 火山対策

01 混雑スポットにおける食事・休憩スペース拡充

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

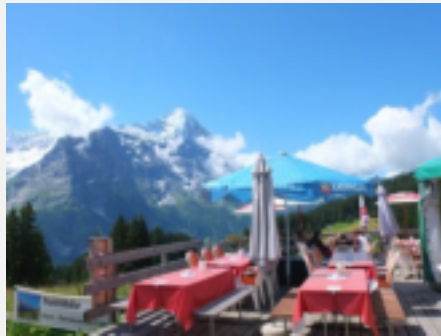
○繁忙期等は、食事・休憩スペースが不足し、利用者の満足度が低下



平日の室堂ターミナル(H28.9)

◎ 第2回会議で提案された解決例

- オープンテラス設置(晴天時)
- 簡易ベンチ・仮設トイレ等設置



アイガーを望むオープンテラス(スイス・ベルン州)
(出所)ハグログ By TABIZINE

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

○混雑時は、食事・休憩スペースが不足し、室堂ターミナルの階段で食事をするような方もいる。オープンテラスやベンチがあると良い。

○自然公園法上の規制はあるが、オープンテラス等の設置は可能ではないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○事業者において、既存のスペース等を活用して、場所ごとにオープンテラス等を検討し、実施。

短期

<今後の検討内容(例)>

- ・優れた景観や静寂な雰囲気を活かした、オープンテラスやカフェ等の設置。
- ・通過されるスポットから、魅力的な滞在スポットを目指す。



マッターホルンを望むオープンテラス (スイス・ツェルマット)
(出所)ツェルマット マッターホルングループHP

◎ 推進体制

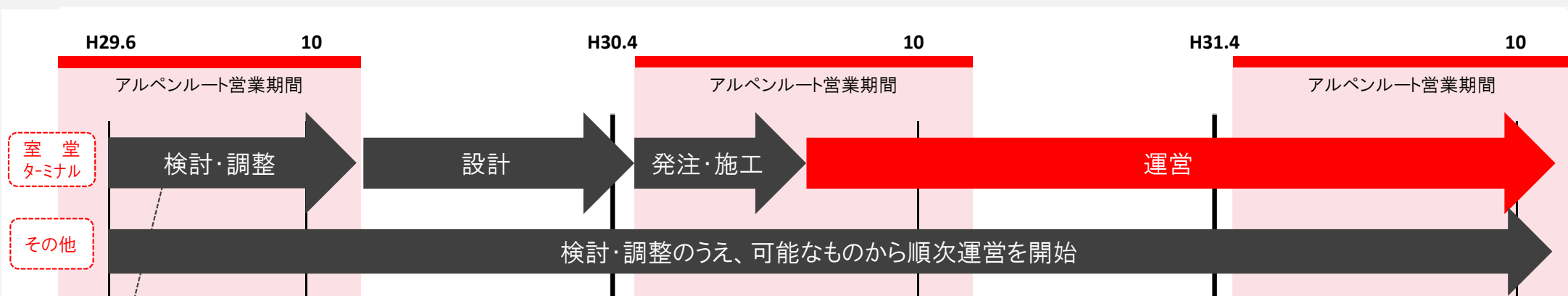
- 立山黒部貫光(株)を中心に、まずは室堂ターミナル(繁忙期における混雑状況が最も著しい場所)において、富山らしい食や優れた景観が楽しめるオープンテラスの設置を検討し、平成30年夏ごろからの運営開始を目指す。
- あわせて、室堂ターミナル以外の場所においても設置を検討。

<事務局> 立山黒部貫光(株)

下線部 は、プロジェクトの実施主体

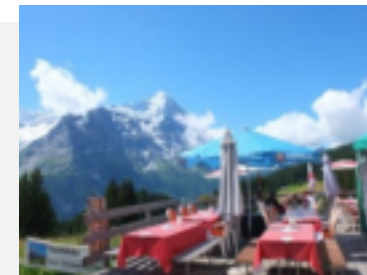
<関係者> 立山山荘協同組合、環境省、富山県、立山町、県内飲食事業者 など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- オープンテラス設置場所
- コンセプト、施設設備
- 運営体制、提供するサービス内容 (富山らしい上質な食を、上質な空間で提供)
ex.立山黒部の山の幸と富山湾の幸・地酒等を、立山連峰を一望できるテラスで提供



アイガーを望むオープンテラス
(スイス・ベルン州)
(出所)ハグログ By TABIZINE



マッターホルンを望むオープンテラス
(スイス・ツェルマット)
(出所)ツェルマット マッターホルングループHP

02 アルペンルートの営業時間拡大

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

○特定の時間帯に混雑が発生し、利用者の満足度が低下



平日の室堂ターミナル(H28.9)

◎ 第2回会議で提案された解決例

- 夏場の営業時間延長
- 魅力ある滞在プログラムの提供



星空ウォッチングツアーイメージ
(出所)㈱星野リゾート HP

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 雲海に沈む夕日など、立山の素晴らしい景観をより多くの方に見てもらえるので、アルペンルートの営業時間の拡大を進めるべき。
- 安全の確保ができれば、営業時間の延長は可能と思われる。
- 混雑日ばかりではないので、平準化を図ることができないか。
- 単に営業時間を拡大するのではなく、観光客が求めるサービスの提供ができるかどうかが重要ではないか。

○夜間の高原バス運行等のため、安全施設(電灯等)を作る場合は、環境負荷への配慮が必要。

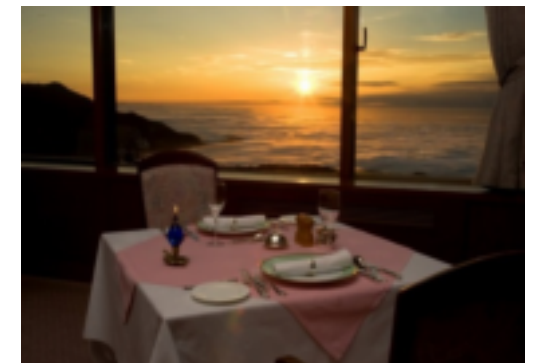
◎ 検討会 中間とりまとめ

○ワーキンググループにおいて、アルペンルートの営業時間を拡大し、魅力ある滞在プログラムを展開する。

短期

<今後の検討内容(例)>

- ・営業時間の延長範囲
- ・星空観察ツアーなど、付加価値の高いプログラムの提供
- ・安全確保の仕組み
- ・平日利用を促す仕掛け(平日利用者向けのフリー切符の企画など)



弥陀ヶ原ホテル 洋食堂から見える夕景

◎ 推進体制

- 立山黒部貫光(株)を中心に、WGを開催。
- 安全確保や環境保全に配慮しつつ、営業時間の拡大範囲や拡大手法、これまで十分に提供されていなかった早朝や夕方・夜の魅力を活かした滞在プログラムを検討し、営業時間を拡大。

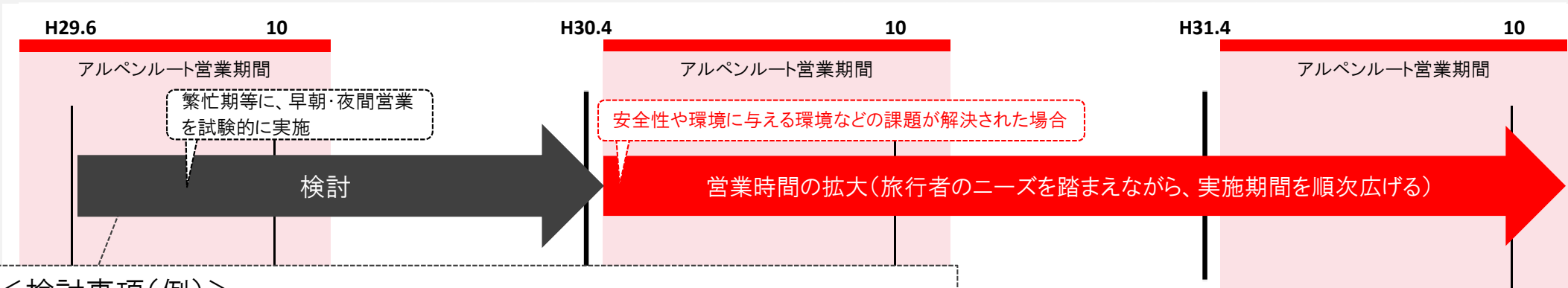
<事務局> 立山黒部貫光(株)

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<WGメンバー> 立山黒部貫光(株)、関西電力(株)、立山山荘協同組合、環境省、富山県、立山町

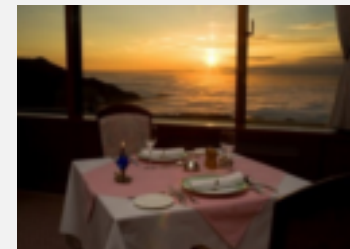
<関係者> 富山県道路公社、富山地方鉄道(株) など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- 早朝、夜間等における道路通行の条件整理、または安全施設の整備検討
- 環境に配慮すべき事項の整理
- 営業時間の許容範囲や拡大の手法、運用オペレーションの検討
- 早朝や夕方、夜の魅力を活かした滞在プログラムの造成
- アルペンルート内外の交通事業者との調整 など



弥陀ヶ原ホテル
洋食堂から見える夕景



星空ウォッチングツアー
(出所)株星野リゾート HP

03 乗車整理券の配布

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- ・例えば、室堂ターミナルで混雑時や臨時便に乗車するために行列が発生
- 待ち時間が長く、満足度が低下
- 待っている時間、消費やアクティビティが発生しない。

◎ 第2回会議で提案された解決例

- 混雑時や臨時便の運行の際、整理券を配布
- デジタルサイネージやスマートフォン等で順番を表示



カフェでの飲食やスーヴェニアショップでの購買等
(出所)榊屋リゾートHP (出所)スカイウェイ・モンテ・ビアンコ
Funivie Monte Bianco S.p.A. HP

臨時便等に乗るための
待ち時間から解放



余剰時間で、
新たな観光行動が発生

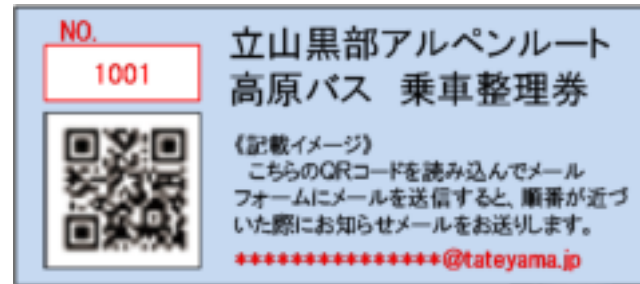
◎ 検討会 中間とりまとめ

○立山黒部貫光(株)において、室堂ターミナル等で立山高原バス等の乗車整理券の配布について検討し、実施。

短期

<今後の検討内容(例)>

- ・携帯電話やデジタルサイネージを活用し、乗車状況を確認しやすいような仕組みを検討。



乗車整理券 イメージ



デジタルサイネージ 設置イメージ

◎ 推進体制

- 立山黒部貫光株を中心に、乗車整理券の配布を検討・実施。

<事務局> 立山黒部貫光株

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者> 関西電力株 など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- 混雑ポイント・時間を改めて精査し、乗車整理券の発行が必要な箇所を検討
- 乗車状況を確認する仕組みの検討(スマートフォンやデジタルサイネージでの表示、メール配信サービスなど)
- 必要経費(インシヤルコスト、ランニングコスト)の精査



04 高原バス等のWEB予約システム

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

・旅行の個人化が進んでおり
個人旅行者への対応が急務

・チケット販売窓口、駅等での混雑

○待ち時間が長い
○待っている時間、消費やアク
ティビティが発生しない。

・美女平～弥陀ヶ原で柔軟な滞在ができず、
利用者の満足度が低い。

○高原バスの利便性が低い
(乗車時間の変更できない等)

◎ 第2回会議で提案された解決例

○ケーブルカー・バス等のWEB予約システム
を導入

・WEB上でいつでも時間指定の切符を購入できるシステム

臨時便等に乗るた
めの待ち時間か
ら解放

余剰時間で、新たな
観光行動が発生

高原バスの利便性
向上により、柔軟
な滞在が可能に

時間を気にせず、立山の
自然を満喫でき、利用
者の満足度が高まる

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

○現在の高原バスは、途中下車や乗車
がしにくいなど、利便性が低い。
利用の増えている欧米豪の方などに、
もっと気軽にトレッキングをしてもらうた
めに、時間指定のできるWEB予約システム
が必要ではないか。

○電話やWiFiが繋がらないエリアにつ
いては、利用者の安全で快適な散策のた
めに、電話やWiFiの整備が必要では
ないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○事業者において、アルペンルート内の乗り物について可能な区間から順次、乗車予
約が可能なWEBシステムを導入する。

短・中期

・現在は、立山ケーブルカー(立山駅～美女平間)のみ乗車予約が可能だが、今後は
各乗り物(高原バス、トローバス等)について、予約が可能となるよう検討。



弥陀ヶ原



美女平の立山杉

◎ 推進体制

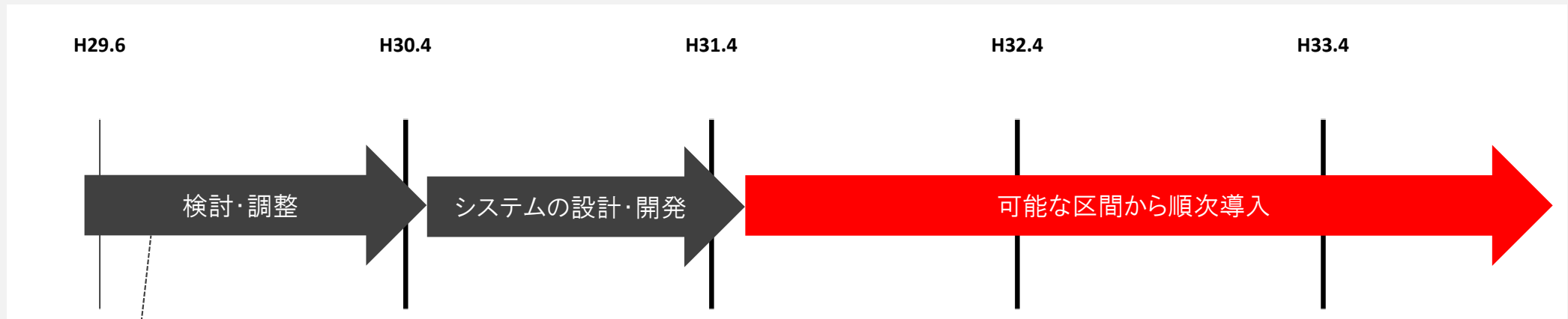
- 立山黒部貫光(株)を中心に、WEB予約システムの導入を検討・実施。

<事務局> 立山黒部貫光(株)

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者> 関西電力(株) など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- 混雑ポイント・時間を改めて精査し、乗車予約の必要性が高い区間を検討
- 予約システム導入による効果・影響のシミュレーション
- 必要経費(インシャルコスト、ランニングコスト)の精査

<関連するプロジェクト>

- 15 携帯電話不通エリア、WiFi未整備エリアの解消

05 宿泊施設の整備

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

○良質な滞在環境を提供できる宿泊施設が不足しているのではないか。

○立山黒部における宿泊キャパシティの不足



ホテル立山

◎ 第2回会議で提案された解決例

○ホテルの建て替え・改築等(誘致を含む)により宿泊施設のクオリティアップを目指す。



星のや富士(富士箱根伊豆国立公園)※第2種特別地域
(出所)㈱星野リゾートHP

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

○立山黒部には、世界水準の洗練度の高い宿泊施設がもっと必要。

○環境保全と利用の両立を図るには、小規模・個人向け・高付加価値な宿泊施設を目指すべき。

○立山黒部は、入込数に対して宿泊キャパシティが少ないので、新たな宿泊施設を誘致してもよいのではないか。

○既存施設の利活用などの方策も検討すべきではないか。

○国立公園内では、宿泊人数のキャパシティ等が決まっているので、それを超える場合には、景観や植生など自然環境への配慮が必要。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○既存の宿泊施設については、事業者において、施設やサービス面等での高付加価値化を目指す。

短期

○宿泊施設の建て替え・新築については、行政及び事業者において、例えば、既に開発されている場所の活用など、景観や植生を害さない形でハイグレードな宿泊施設の整備を検討していく。

短・中期



クルム ホテル
(スイス:ツェルマット、標高約3,100mに位置する山岳リゾートホテル)
(出所)スイス・ツェルマット観光局 HP

(1) 既存宿泊施設の高付加価値化

◎ 推進体制

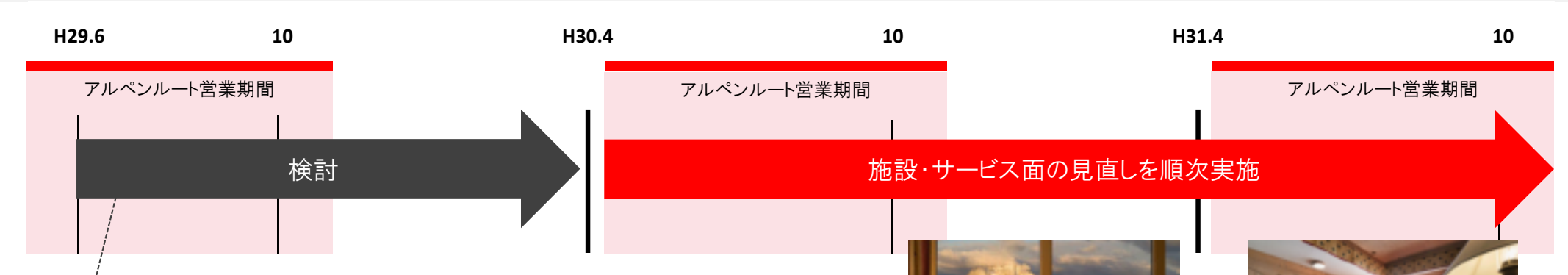
- 立山黒部貫光(株)をはじめ、立山黒部アルペンルート内に宿泊施設を有する各事業者において、施設やサービス面等での高付加価値化に順次取り組む。

<事務局> 立山黒部貫光(株)

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者> 立山山荘協同組合、観光庁、環境省、富山県 など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- 宿泊客向けのアンケート調査の実施
- アンケート調査に基づく課題の整理・改善策の検討



ジャクソン レイク ロッジ
(アメリカ: グランドティトン国立公園、
 雄大な山脈を眺めながら食事ができるレストラン)
 (出所) Grand Teton Lodge Company HP



ホテル スイーツ デュ モンタナ
(フランス: ヴァノワーズ国立公園、
 27の客室は全てスイートルーム)
 (出所) VILLAGE MONTANA HP

(2) 宿泊施設の建て替え・新築

◎ 推進体制

- 県庁内に「立山黒部アルペンルート宿泊施設整備サポートデスク(仮称)」を設け、宿泊施設の建て替え・新築を予定・希望する事業者を受付・発掘する。
- あわせて、具体的な案件が出てきた場合には、景観や植生などを害さず建て替え・新築を行う手法について、国とも協議し、検討を進める。

<事務局> 富山県 下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者> 立山黒部貫光(株)、立山山荘協同組合、観光庁、環境省、立山町 など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- 駅やターミナルの改修等とあわせた一体的な整備
- 自然公園法上の規制の整理
- 他の国立公園における宿泊施設の建て替え・新築事例の研究



クルムホテル (出所)スイス・ツェルマット観光局 HP

06 滞在プログラムの充実

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 個人旅行者の増加に対応した、滞在プログラムの充実
- エコツーリズム等を展開するガイドの不足

◎ 第2回会議で提案された解決例

- ・ガイドが活動・参入しやすいプラットフォームの整備
- ツアーデスクの設置
立山駅や室堂などでツアーデスクを設置・運営
- ガイドの運賃減免等の支援
ガイドの運賃を減免するなどの優遇を行う

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

○立山黒部では、滞在プログラムを提供する事業者やガイドがほとんどいないので、**ニーズに応じた魅力的で多様な滞在プログラムの充実が必要**。

○ツアーデスクの設置や(現在は、正規価格を支払っている)ガイド運賃の減免など、**ガイドが活動・参入しやすい環境整備を進めるべき**。

○ガイドが同行することにより、利用者の安全性も高まる。

○質の高い**ガイドツアーは、環境保全の啓発の役割も担うことができる重要な取り組み**ではないか。

○ツアー催行業者が、公園の利用方法などについて、**公園管理者等に対して提案できる仕組み**や、その調整のための**組織作り、ルール作りが必要**ではないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○ワーキンググループにおいて、滞在プログラムの充実のため、ガイドが活動・参入しやすいプラットフォームの整備を進める。

短期

<今後の検討内容(例)>

- ・立山黒部貫光など事業者が中心となり、組織化
- ・ガイドの質を高める取り組みの検討
(評価制度の構築、とやま観光未来創造塾と連携した人材育成など)



ツアーデスクにおける旅行案内

とやま観光未来創造塾



Toyama Kanko Mirai Souzou Juku



森林セラピーちようこりコース

(出所)㈱エコロの森

◎ 推進体制

- 立山黒部貫光株を中心に、WGを開催。
- 滞在プログラムの充実のため、ガイドが活動・参入しやすいプラットフォームを整備。

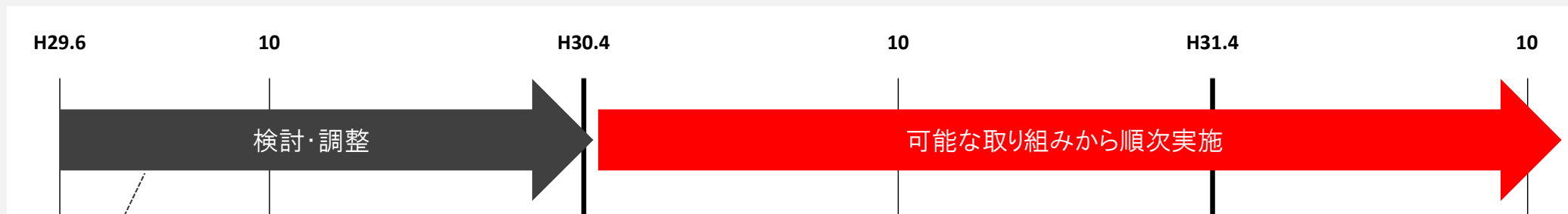
下線部 は、プロジェクトの実施主体

<事務局> 立山黒部貫光株

<WGメンバー> 立山黒部貫光株、関西電力株、立山山荘協同組合、(株)エコロの森、(株)J-WET Adventures、環境省、富山県、黒部市、立山町

<関係者> 滞在プログラム提供事業者(ツアーガイド等) など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- 滞在プログラム提供事業者の組織化
- ツアーデスクの設置
- ガイドの運賃減免など事業者への支援制度
- ガイドの質を高める取り組み(とやま観光未来創造塾との連携など)



上質な滞在環境の整備 (P4~16)

- 01 混雑スポットにおける食事・休憩スペースの拡充
- 02 アルペンルート of 営業時間拡大
- 03 乗車整理券の配布
- 04 高原バス等のWEB予約システム
- 05 宿泊施設の整備
- 06 滞在プログラムの充実

新しい魅力の発掘・磨き上げ(P18~34)

- 07 アルペンルート of 早期開業
- 08-09 冬季営業(アルペンルート、黒部峡谷鉄道)
- 10 ヘリスキー of 企画・実施
- 11 黒部ルート見学会 of 旅行商品化
- 12 カルデラ体験学習会 of 旅行商品化

顧客層にあわせた受入環境の整備(P36~43)

- 13 新しいマーケット(欧米豪)での認知度向上
- 14 多言語表記・案内 of 充実
- 15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリア of 解消
- 16 ユニバーサルサービスの推進

周遊性の確保(P45~49)

- 17-19 ロープウェイ of 整備
- 20 宇奈月温泉街 of 賑わい創出

自然環境の適正利用(P51~55)

- 21 登山道 of 整備
- 22 環境意識 of 啓発

自然環境の保全(P57~64)

- 23 山岳トイレ of 整備
- 24 外来植物除去活動 of 推進
- 25 利用調整地区 of 導入の検討
- 26 環境保全経費 of 受益者負担の在り方の検討

ライチョウの保全(P66~67)

- 27 とやま of ライチョウサポート強化、生息状況調査

利用者の安全確保(P69~72)

- 28-1 雪崩事故対策
- 28-2 火山対策

07 アルペンルートの早期開業

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 通年営業の実現
- 強みを活かした観光誘客
 - ・雪の大谷は、台湾、香港をはじめ東南アジアの旅行者に訴求

◎ 第2回会議で提案された解決例

- 関係者の合意を得て、春の早期開業を進める。
 - ・環境保全、適正利用、安全管理、各事業主体の経営事情など総合的な観点から協議



雪の大谷の時期は、1日に1万人の入込が見込まれる。

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 積雪量は毎年変動があるため、積雪量や除雪作業の進行具合なども踏まえながら、**弾力的に早期開業を進めるべき。**
- 早期開業の実施には、安全確保と、関係者の合意が前提ではないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

ワーキンググループにおいて、

- アルペンルート開業日のルール化を進める。

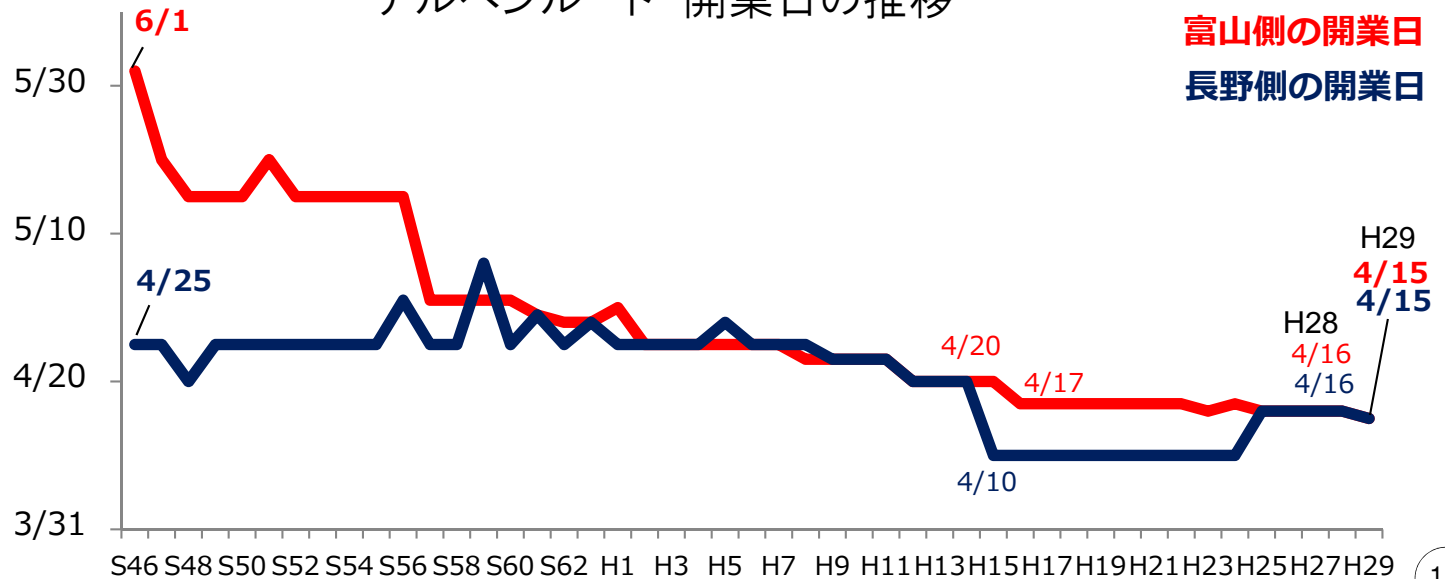
例えば、当面、4月中旬(具体的な日は要検討)の土曜日に開業。

短期

- 積雪量や除雪作業の進行具合も踏まえつつ、関係者の合意を得ながら、さらなる開業日の前倒しの可能性について検討。

中期

アルペンルート 開業日の推移



(1) アルペンルート開業日のルール化

◎ 推進体制

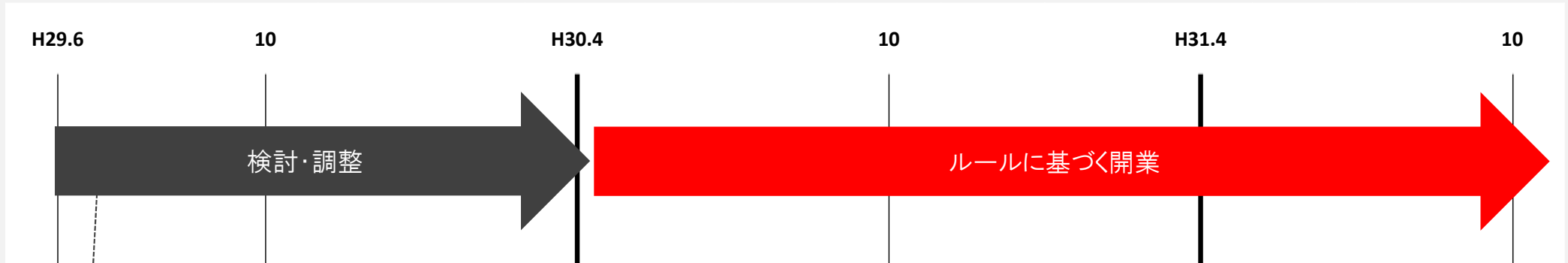
- 立山黒部貫光株を中心に、WGを開催。
- 平成29年度内にルールを定め、平成30年度からルールに基づく開業を目指す。

<事務局> 立山黒部貫光株 下線部 は、プロジェクトの実施主体

<WGメンバー> 立山黒部貫光株、関西電力株、立山山荘協同組合、環境省、富山県、立山町

<関係者> 富山気象台、富山県道路公社、富山地方鉄道株、自然保護団体 など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- アルペンルート開業日のルール化 など
- ※例えば、当面、4月中旬(具体的な日は要検討)の土曜日に開業

(2) 更なる開業日の前倒し

◎ 推進体制

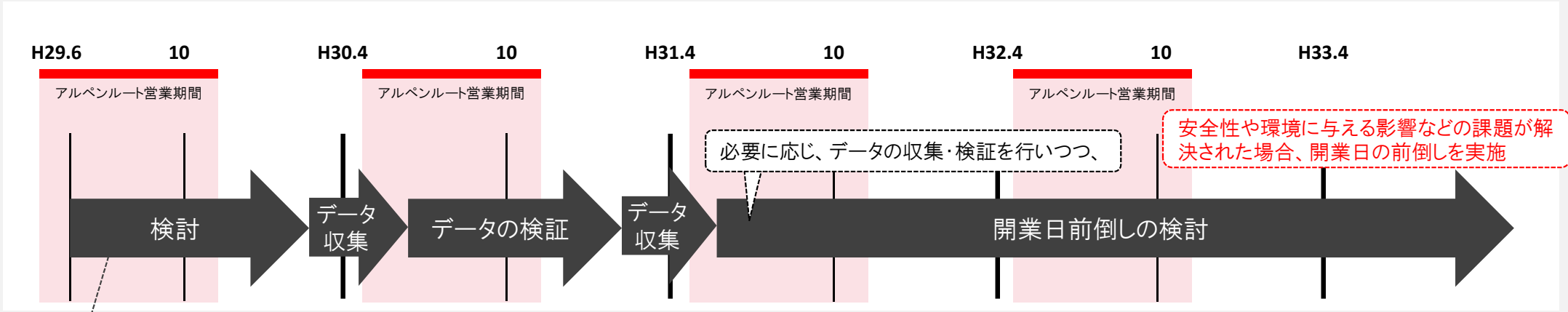
- 立山黒部貫光株を中心に、WGを開催。
- 気象データなどを収集・分析。安全性や環境に与える影響などの課題や実施条件について整理し、関係者の合意を得ながら、更なる開業日の前倒しの可能性について検討を進める。

<事務局> 立山黒部貫光株 下線部 は、プロジェクトの実施主体

<WGメンバー> 立山黒部貫光株、関西電力株、立山山荘協同組合、環境省、富山県、立山町

<関係者> 富山気象台、富山県道路公社、富山地方鉄道株、自然保護団体 など

◎ スケジュールイメージ



- <検討事項(例)>
- 安全性確保などの論点の整理
 - 検討に必要な積雪量・気象条件など収集すべきデータの整理 など

08~09 冬季営業(アルペンルート、黒部峡谷鉄道)

◎これまでの議論

◎ 第2回会議で提案された解決例

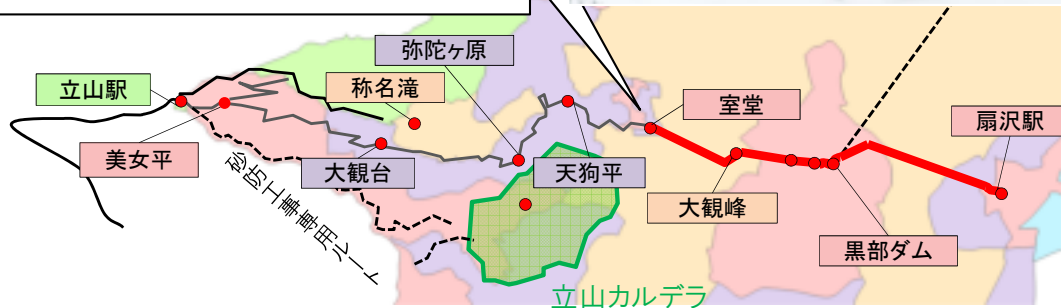
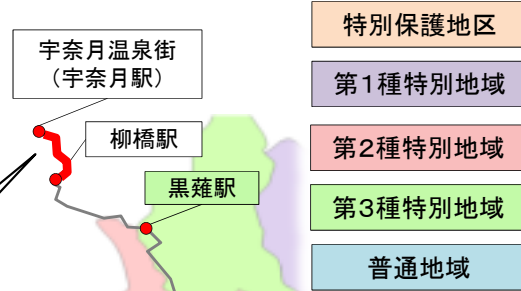
○冬季営業を実現し、立山や黒部(宇奈月)の冬の魅力を活かした新たな誘客を展開

09 黒部峡谷鉄道の冬季営業

- ・冬季営業のための安全確保
- ・黒部峡谷鉄道の通年営業(例えば、宇奈月駅~柳橋駅などの一部区間)
- ・冬季限定の滞在プログラムの実施(利用者の安全確保が前提)

08 アルペンルートの冬季営業の試験的实施

- ・大町アルペンラインの冬季供用
- ・扇沢~室堂区間の各輸送施設の冬季運行
- ・関西電力黒部ダム天板の冬季通行
- ・宿泊施設の冬季営業(ホテル立山等)
- ・冬季の滞在プログラムの提供(利用者の安全確保が前提)



◎ 第1回会議で出された課題

- 通年営業の実現
- 冬の素材を活かした魅力の提案



冬の黒部峡谷鉄道(新山彦橋)(出所)(一社)黒部・宇奈月温泉観光局

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 立山の雪、特に室堂周辺の積雪量は、ヨーロッパを超えるポテンシャルがある。
- ガイドが同行することにより、利用者の安全性も高まる。
- ライチョウの生態系や雪崩に関する研究が進めば、冬季の営業期間・営業範囲などの条件も整理されるのではないかな。
- 質の高い人材を長く雇用するためにも、冬季営業(通年営業)を行い、通年で働ける環境を作るべきではないかな。

《アルペンルート》

- 冬季営業は、エリアによっては、ライチョウ生息等に影響を与えかねないので、詳細な生態系の調査分析が必要。
- 室堂~天狗平間は、特に積雪量が多いため冬季の除雪が難しく、現状での冬季営業は困難。
- 厳冬期は、晴天率が低く、屋外での活動の危険性が非常に高いため、安全面だけでなく、観光の面からも屋内での過ごし方の検討が必要。

《黒部峡谷》

- 冬季営業には、雪崩の被害を防ぐため、スノーシェッドの整備が必要。しかし、工事費等の課題がある。

08～09 冬季営業②(アルペンルート、黒部峡谷鉄道)

◎ 検討会 中間とりまとめ

《08 アルペンルートの冬季営業の試験的实施》

○事業者において、
営業期間内の11月について、雪の魅力を活かし、訪日旅行者等の誘客
を推進する。

短期

○ワーキンググループにおいて、
12月以降の営業の可能性(大町ルートを想定)について、気象データな
どを収集・分析し、慎重に検討を進める。

中期

《09 黒部峡谷鉄道の冬季営業》

○ワーキンググループにおいて、
スノーシェットの設置など安全性の確保や採算性、旅行商品としての魅力
について検討を進める。

中期



室堂から望む立山連峰(晴天時)



大町アルペンラインのスノーシェット

(1) 営業期間内の誘客(立山黒部アルペンルート)

◎ 推進体制

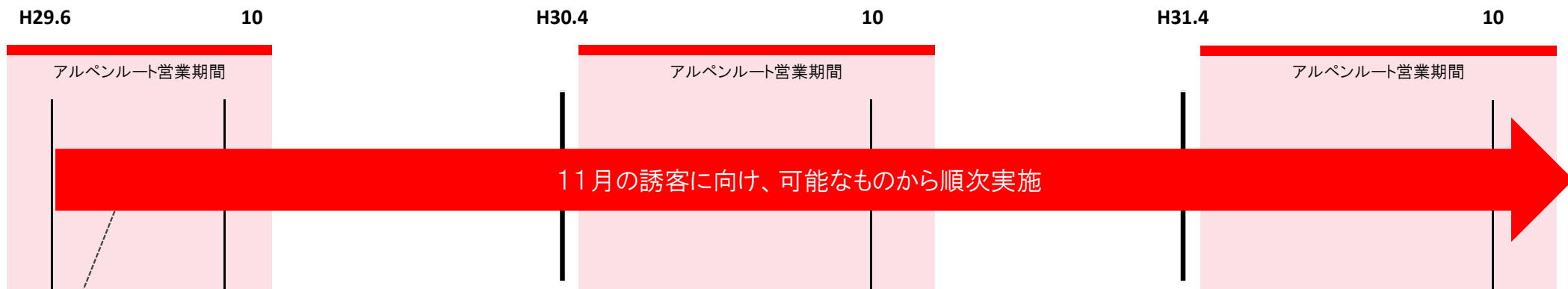
- 立山黒部貫光(株)を中心に、営業期間内の11月について、雪の魅力を活かし、訪日旅行者等の誘客を推進する。

<事務局> 立山黒部貫光(株)

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者> 関西電力(株)、立山山荘協同組合、富山県、立山町 など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

ターゲットとする市場を踏まえ、以下について検討

- 雪の魅力を活かした滞在プログラムの造成
- 効果的なプロモーション方法の検討 など

(2) 冬季営業の検討(立山黒部アルペンルート)

◎ 推進体制

- 立山黒部貫光株を中心に、WGを開催。
- 気象データなどを収集・分析。安全性や環境に与える影響などの課題や実施条件について整理し、12月以降の営業の可能性について慎重に検討を進める。

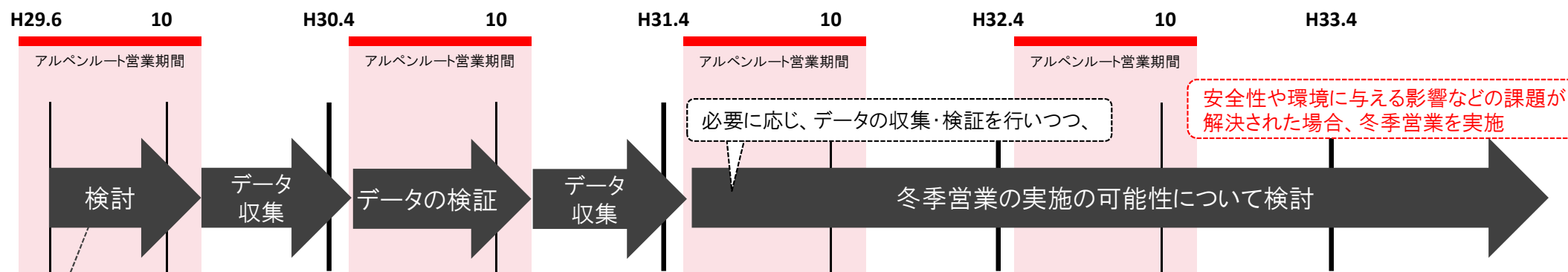
<事務局> 立山黒部貫光株

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<WGメンバー> 立山黒部貫光株、関西電力株、立山山荘協同組合、環境省、富山県、立山町

<関係者> 富山気象台、富山県道路公社、富山地方鉄道株、自然保護団体 など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- 安全確保などの論点の整理
- 検討に必要な積雪量・気象条件など収集すべきデータの整理 など

(3) 冬季営業の検討(黒部峡谷鉄道)

◎ 推進体制

- 黒部峡谷鉄道株を中心に、WGを開催。
- スノーシェットの設置など安全性の確保や採算性、商品としての魅力について検討。

<事務局>

黒部峡谷鉄道株

下線部 は、プロジェクトの実施主体

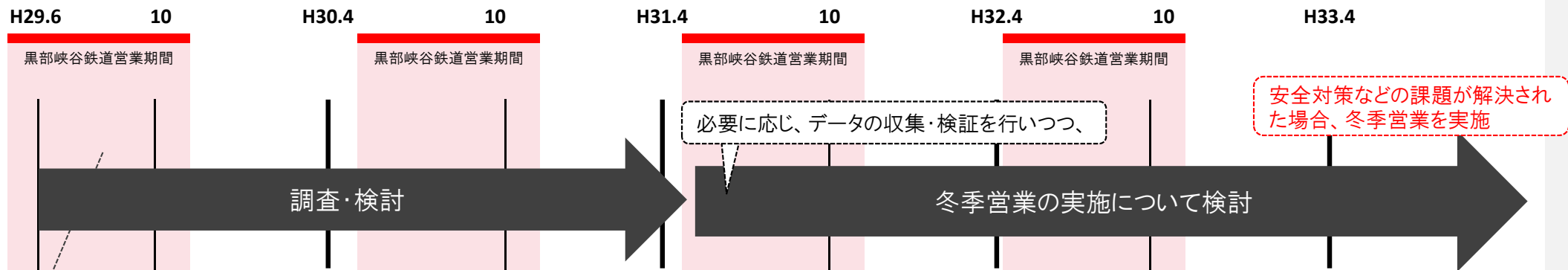
<WGメンバー>

黒部峡谷鉄道株、関西電力株、富山県、黒部市

<関係者>

富山気象台 など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- スノーシェットの設置など安全対策(手段、費用、景観への配慮等)
- 魅力ある滞在プログラム(宇奈月温泉との連携、トロッコ電車到着駅での過ごし方) など



10 ヘリスキーの企画・実施

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 冬季の観光誘客
- 豊富な積雪量を活かした新たな魅力の提案
- 欧州、米国などの新規市場の開拓



山岳スキー

◎ 第2回会議で提案された解決例

○ヘリスキーの企画・実施

・プロによる安全管理のもと、専門知識を備えた世界の山岳スキーヤーを対象にした上級者向けヘリスキーの企画・実施を検討。



(出所)フェロートラベルHP

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 立山の雪、特に室堂周辺の積雪量は、ヨーロッパを超えるポテンシャルがある。
- ガイドが同行することにより、利用者の安全性も高まる。
- ライチョウの生態系や雪崩に関する研究が進めば、ヘリスキー実施の条件も整理されるのではないか。
- エリアによっては、ライチョウ生息等に影響を与えかねないので、詳細な生態系の調査分析が必要。
- 雪崩などに対する利用者の安全確保が前提ではないか。
- 国立公園内におけるヘリの離着陸については、自然公園法の規制の範囲での実施が必要。

◎ 検討会 中間とりまとめ

- 気象データやライチョウの生態などの環境面や安全面などを調査・分析し、慎重に検討を進める必要がある。
- また、ヘリスキーに限らず、豊富な雪の量を活用したアクティビティについて、検討する。

中期



室堂から望む立山連峰(晴天時)

◎ 推進体制

- 富山県を中心に、まずは、実施を希望する事業を掘り起こし、検討を進める。
- 気象データやライチョウの生態などの環境面や安全面などを調査・分析し、慎重に検討。
- ヘリスキーに限らず、豊富な雪の量を活用したアクティビティについて検討。

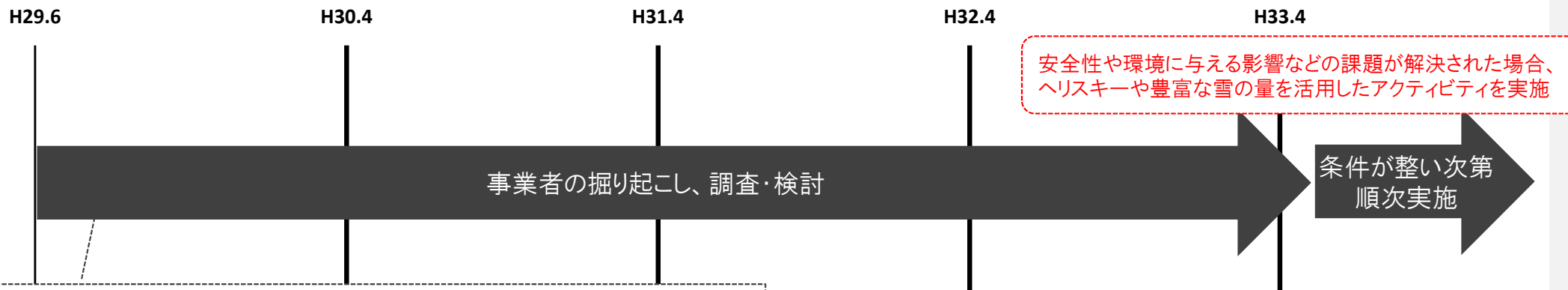
<事務局> 富山県

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者> ヘリスキー実施事業者、環境省、自然保護団体 など

◎ スケジュールイメージ

※中期(3~4年)で達成することを想定した場合のスケジュール(イメージ)を記載



<検討事項(例)>

- 自然公園法の規制等の整理(実施可能な方法の検討)
- ライチョウの生態など環境面の調査
- 気象データなど安全面の調査
- ヘリスキー以外のアクティビティ など

11 黒部ルート見学会の旅行商品化

◎これまでの議論

◎ 課題・論点

- アルペンルートと黒部峡谷は、それぞれ異なる特有の自然景観や魅力を有するが、周遊することができない。
- 電源開発の歴史を活かし、さらなる観光需要の創出が必要

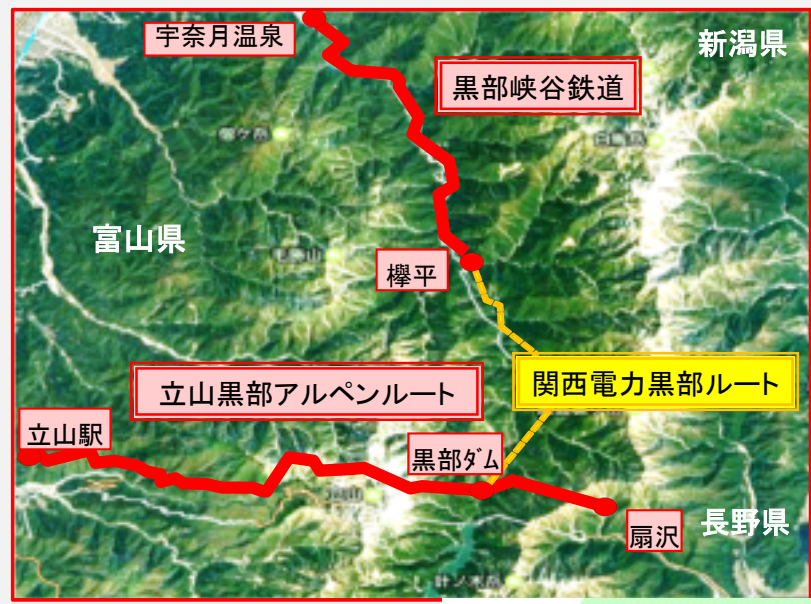
◎ 委員提案の解決例

黒部ルート見学会の旅行商品化

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 現在、安全かつ発電事業に支障なく通過している公募枠・社客枠については、旅行商品化することは十分可能ではないか。
- 旅行商品化により露出が高まり、より多くの方に黒部ルートについて知ってもらうことができる。このことは、「発電事業に対する理解の促進」という見学会の本来の目的に合致するのではないか。
- 「まったく対応できない」ということではなく、地元富山県に真摯に寄り添って、できることは真剣に検討すべきではないか。
- すでに関西電力は様々な地域貢献をしているところだが、黒部ルートの旅行商品化等については、安全の確保と発電事業への支障という観点から困難である。



(出所) Google earthをもとに作成

《黒部ルート》

黒部ダムと黒部峡谷の樺平を結ぶルート。黒部川第三発電所、第四発電所の建設などに伴い、関西電力(株)が工事専用軌道として整備したもの。現在、公募見学会が行われているが、一般の観光客には開放されていない。



縦坑エレベーター

高熱隧道

黒部ルートの一部区間は既に観光客に開放済み
(旅行商品「黒部峡谷パノラマ展望ツアー」として販売)
※H28利用者: 11,260人

立山黒部アルペンルート
H28入込客数: 約92万2千人
(うち訪日旅行者241,900人)

旅行商品として販売

黒部峡谷鉄道

H28入込客数: 約35万5千人
(うち訪日旅行者21,812人)

11 黒部ルート見学会の旅行商品化②

◎ 検討会 中間とりまとめ

『立山黒部』世界ブランド化推進会議(仮称)において、検討を進める。

- 【メンバー(案)】 有識者
 関西電力株代表取締役社長(または準ずる方)
 立山黒部貫光株代表取締役社長
 黒部峡谷鉄道株代表取締役社長 など



ワーキンググループにおいて、具体的な課題整理・解決策の検討などを行う。

- 【メンバー(案)】 有識者
 本省課長クラス(観光庁、国交省、環境省)
 北陸信越運輸局
 関西電力(株)、黒部峡谷鉄道(株)、富山県など

○現在、安全かつ発電事業に支障なく通過している見学者枠(公募枠・社客枠合計約4,000人)程度又は若干増について、旅行商品化に向け、検討を行う。その際には、県外からの参加者については県内での宿泊を条件とするなど、地域の観光事業者等との連携の在り方について検討。

短期

○次の課題として、安全性の確保を前提として、旅行商品化による見学者枠の大幅拡大等について検討。

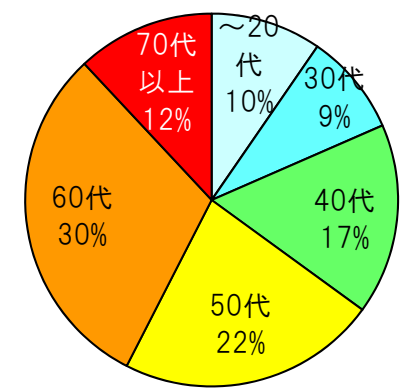
短・中期

黒部ルート公募見学会の概要

※参加費無料

- ・催行
平日のみ34日
(6~11月(週1~2日)実施)
- ・定員
1日2便、各便30名
(榎平出発コース
黒部ダム出発コース)
- ・年間枠
34日×2便×30名=2,040名

参加者の年齢別割合(平成28年度)
(アンケート結果より(N=1,865名))



◎ 検討事項

現在、安全かつ発電事業に支障なく通過している「**現行の見学者数**」について議論するためには、**社客見学会の内容について把握する必要がある。**

① 現行の見学者枠(実施日・定員等)について

	公募見学会 (A)		社客見学会 (B)		現行の見学者枠 (A) + (B)	
	平日	土日祝日	平日	土日祝日	平日	土日祝日
実施日	○	×	○	○	公募・社客	社客のみ
	34日間		?日間		?日間	
対象(選び方)	一般人(抽選)		社客(招待)		一般人(抽選) 社客(招待)	
便数/日	2便 榑平→黒部ダム 黒部ダム→榑平		? 榑平→黒部ダム 黒部ダム→榑平		? 榑平→黒部ダム 黒部ダム→榑平	
定員/便	30人		?		?	
年間定員	2,040人 ----- (30人 × 2便 × 34日)		? (H8年は2,000人)		2,040人 + ? (H8年の実績をもとに すると4,000人程度)	

【参考】 パノラマ展望ツアー (榑平駅～豎坑エレベーター)	
平日	土日祝日
○	○
(金・土・日・月) 約100日間	
一般人 (旅行商品として販売)	
4便 榑平→豎坑エレベーター	
53人	
約21,200人 ----- 53人 × 4便 × 約100日	

【参考】利用者実績
H27(5.29～11.30)12,383人
H28(6.3～11.14)11,260人

◎ 検討事項

② 安全性の確保について

	公募見学会 社客見学会	旅行商品化	【参考】 パノラマ展望ツアー (樺平駅～豎坑エレベーター)
対 象	特定の一般人	同左 (旅行商品として販売)	特定の一般人 (旅行商品として販売)
	定員約4,000人?	同左	定員約21,200人
選び方	抽選・招待	 予約先着順	予約先着順
安全性の確保	○ 実施内容 <ul style="list-style-type: none"> 少人数での運行 案内人の同行 	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; color: red;"> 安全性を確保する観点から、「選び方」を変更すること(抽選・招待⇒予約先着順)によって必要となる追加的な対策は何か。 </div>	○ 実施内容 <ul style="list-style-type: none"> 少人数での運行 案内人の同行
	○ 対象の制限 <ul style="list-style-type: none"> 小学5年生以上 (小学5、6年生は、保護者同伴) 乗り物の乗降や階段の歩行に支障のない方 登山目的の参加は不可 		○ 対象の制限 <ul style="list-style-type: none"> 小学5年生以上 (小学5、6年生は、保護者同伴) 乗り物の乗降や階段の歩行に支障のない方
	○ 見学時の留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ヘルメット着用 本人確認(公的証明書の提示) 携行品のチェック(危険物・有害物の持込防止) など 		○ 見学時の留意事項 <ul style="list-style-type: none"> ヘルメット着用 本人確認(公的証明書の提示) 携行品のチェック(危険物・有害物の持込防止) など

※ 鉄道事業ではないものとして整理

◎ 推進体制

- 富山県と関西電力(株)を中心に、WGを開催。
- 旅行商品化、見学者枠の拡大等について具体的な課題整理・解決策の検討を行う。

<事務局>

富山県

下線部 は、プロジェクトの実施主体

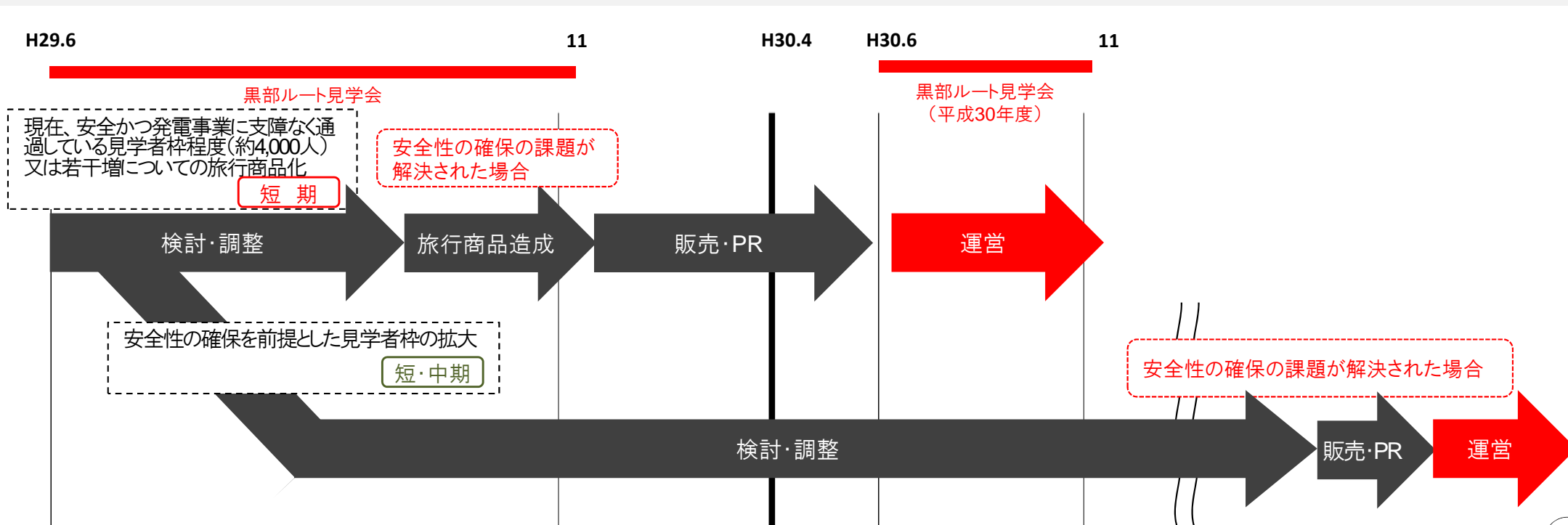
<WGメンバー>

黒部峡谷鉄道(株)、関西電力(株)、国土交通省、観光庁、環境省、富山県、黒部市など

<関係者>

(公社)とやま観光推進機構、(一社)黒部・宇奈月温泉観光局 など

◎ スケジュールイメージ



12 カルデラ体験学習会の旅行商品化

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 新たな周遊ルートの開発
(立山駅～立山カルデラ)
- 産業遺産、自然景観を活かした新たな魅力の提案

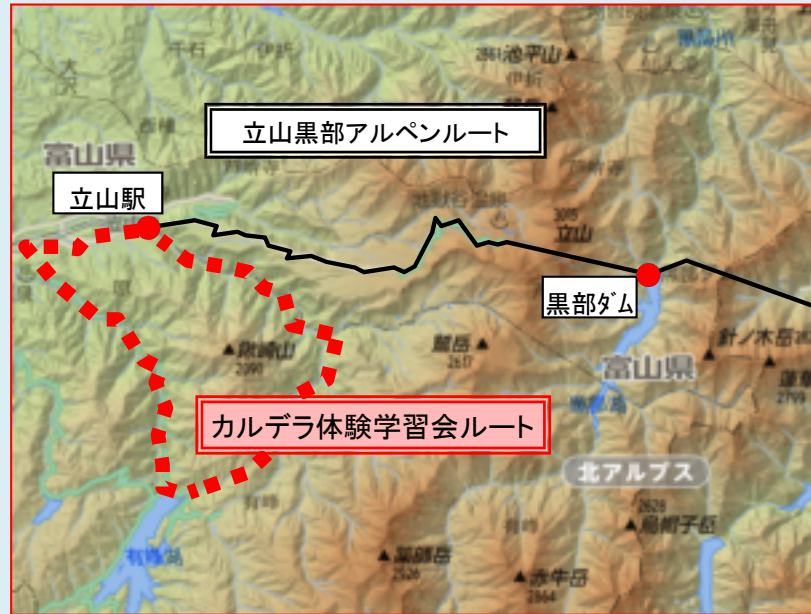
◎ 第2回会議で提案された解決例

- カルデラ体験学習会の旅行商品化
・例えば、これまで公募で実施してきたカルデラ体験学習会の一部を観光客に開放

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 立山カルデラや砂防施設の活用について、**積極的に検討し、インフラツーリズムを推進**すべき。
- 立山カルデラや砂防施設の活用は、**砂防工事に支障の出ない範囲で実施**すべき。
- 立山カルデラは、地盤が弱く、土砂崩れなどの恐れがあるため、**安全確保に留意**すべき。
- しっかり**ガイドできる人材が不足していることから、育成**すべき。



(出所) Yahoo Japanをもとに作成

《カルデラ体験学習会》

立山駅から立山カルデラまでの砂防工事専用トロッコを利用したルートを活用し、年40回程度の体験学習会を開催
※公募枠 1,960名(H28年度)



立山カルデラ(鳶山の崩れ跡)

◎ 検討会 中間とりまとめ

- ワーキンググループ**において、砂防工事とのバランス、安全確保、ガイド育成等の課題を整理し、立山カルデラや砂防施設の魅力を活かした旅行商品化に向け、検討を行う。
その際には、有峰森林文化村とのネットワークの充実や有峰周辺の観光資源としてのさらなる磨き上げにも留意しながら、連携して取り組む。

短期

《平成29年度の取り組み》

- 立山砂防の世界遺産登録推進アニメ映像製作事業(県)



◎ 推進体制

- 富山県を中心に、WGを開催。
- 安全確保、ガイド育成等の課題を整理し、立山カルデラや砂防施設の魅力を活かした旅行商品化に向け、検討を進める。

<事務局>

富山県

下線部 は、プロジェクトの実施主体

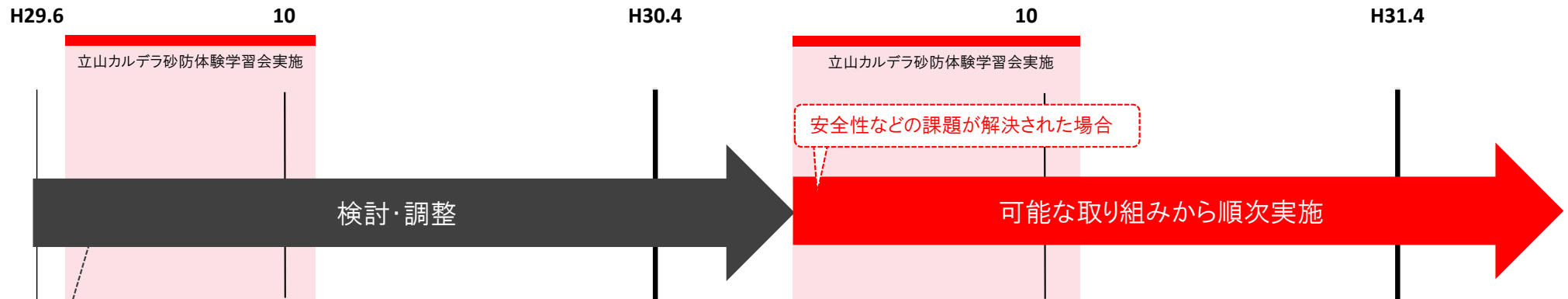
<WGメンバー>

国土交通省立山砂防事務所、富山県

<関係者>

(公社)とやま観光推進機構、(公財)立山カルデラ砂防博物館 など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- 砂防工事とのバランス、安全確保
- 有峰周辺の観光資源の活用
- ガイドの育成・確保の取り組み など



上質な滞在環境の整備 (P4~16)

- 01 混雑スポットにおける食事・休憩スペースの拡充
- 02 アルペンルート of 営業時間拡大
- 03 乗車整理券の配布
- 04 高原バス等のWEB予約システム
- 05 宿泊施設の整備
- 06 滞在プログラムの充実

新しい魅力の発掘・磨き上げ(P18~34)

- 07 アルペンルート of 早期開業
- 08-09 冬季営業(アルペンルート、黒部峡谷鉄道)
- 10 ヘリスキー of 企画・実施
- 11 黒部ルート見学会 of 旅行商品化
- 12 カルデラ体験学習会 of 旅行商品化

顧客層にあわせた受入環境の整備(P36~43)

- 13 新しいマーケット(欧米豪) of 認知度向上
- 14 多言語表記・案内 of 充実
- 15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリア of 解消
- 16 ユニバーサルサービスの推進

周遊性の確保(P45~49)

- 17-19 ロープウェイ of 整備
- 20 宇奈月温泉街 of 賑わい創出

自然環境の適正利用(P51~55)

- 21 登山道 of 整備
- 22 環境意識 of 啓発

自然環境の保全(P57~64)

- 23 山岳トイレ of 整備
- 24 外来植物除去活動 of 推進
- 25 利用調整地区 of 導入の検討
- 26 環境保全経費 of 受益者負担の在り方の検討

ライチョウの保全(P66~67)

- 27 とやま of ライチョウサポート強化、生息状況調査

利用者の安全確保(P69~72)

- 28-1 雪崩事故対策
- 28-2 火山対策

13 新しいマーケット(欧米豪等)での認知度向上

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 欧米豪等からの観光客数の割合が低い。
- 欧米豪等での本県認知度が低い。

【欧米豪市場における観光客の特徴】
平均滞在日数が長く、旅行支出も多いため地域活性化が期待できる。

◎ 第2回会議で提案された解決例

- 旅行ガイドやWEBサイト等を活用した効果的な情報発信による認知度の向上
- 欧州のグルメガイド(ミシュラン、ゴ・エ・ミヨ)で高い評価を受けている本県の食の魅力と併せた情報発信
- 広域観光周遊ルートの形成促進

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 立山黒部の自然環境や景観は、欧米豪の方に訴求できる魅力がある。
- 立山黒部の雪、特に室堂周辺の積雪量は、ヨーロッパを超えるポテンシャルがある。
- 立山黒部は、東南アジアでの認知度は高いが、欧米豪での認知度は低い。
欧米豪の方に受ける要素はたくさんあるので、メディア・旅行会社の活用がポイントではないか。
- 欧米豪の方が支持する観光地に、アジアの方も旅行する傾向がある。インバウンド戦略として、欧米豪は大事にすべきではないか。
- 立山黒部が欧米豪の方に支持される観光地となるには、情報発信だけでなく、目的地としてのクオリティを高める取り組みも必要ではないか。
- 訪日旅行者だけでなく、国内旅行者も大切な顧客であることを忘れるべきではない。

◎ 検討会 中間とりまとめ

- 事業者と行政が連携し、欧米豪のマーケットに対して、積極的・効果的なプロモーションを展開。 短期

《平成29年度の取り組み》

- 欧米観光客誘客ガイドブック等活用事業・「ミシュラン・グリーンガイド富山WEB版(仏語・英語版)」、
- 「ジャパンガイド(世界NO.1の訪日観光客向けポータルサイト)」を活用した情報発信

<今後の検討内容(例)>

- ・認知度向上に寄与する広告媒体との連携



(出所)ジャパンガイド HP

◎ 推進体制

- 富山県を中心に、事業者と行政が連携し、欧米豪のマーケットに対して、積極的・効果的なプロモーションを展開。

<事務局> 富山県

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者> 立山黒部貫光(株)、黒部市、立山町 など

◎ スケジュールイメージ



《平成29年度の取り組み》

○旅行ガイド等活用欧米観光客誘致促進事業

「ミシュラン・グリーンガイド富山WEB版(仏語・英語版)」、「ジャパンガイド(世界NO.1の訪日観光客向けポータルサイト)」を活用した情報発信

○広域観光周遊ルートの形成促進

「新ゴールデンルート」など広域観光周遊ルートの形成促進を図り、国や沿線自治体等と連携してプロモーションの実施

<検討事項(例)>

- プロモーションの対象(富裕層・FIT層など)
- 広告媒体、提案方法
- プロモーションツールの作成 など

14 多言語表記・案内の充実

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 多言語表記・外国語案内が不十分
- 訪日旅行者向けのユーザビリティの高い情報提供ができていない。

◎ 第2回会議で提案された解決例

- アルペンルート及び黒部峡谷鉄道内の駅・施設における多言語表記、ピクトグラムでの情報発信
- ユーザビリティの高い情報提供による訪問者の満足度向上

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 増加している訪日旅行者に対応するため、登山道やターミナルの多言語表記・案内の充実が必要ではないか。
- 訪日個人旅行者は、英語を話せる場合が多いため、案内表示・看板等は、ピクトグラムや日本語と英語で表記するのが良いのではないか。
WEB・パンフレットは、日本語、英語だけでなく、中国語や韓国語など多言語で作成・用意するのが良いのではないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○事業者と行政が連携し、多言語・ピクトグラムでの表記、案内の充実を積極的に図る。

短期

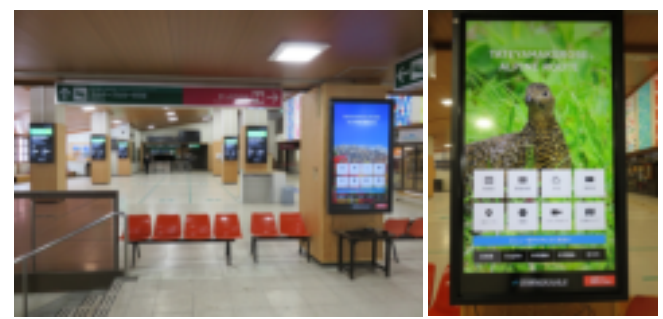


弥陀ヶ原のハイキング

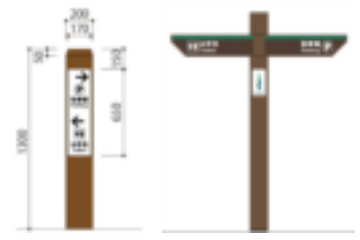


《平成28年度の取り組み》
○立山駅におけるデジタルサイネージの設置(立山黒部貫光)

《平成29年度の取り組み》
○室堂ターミナル、黒部湖駅におけるデジタルサイネージの設置(立山黒部貫光)
○登山道における看板の多言語化、デザイン統一(環境省)
○外国語が堪能なナチュラルリストの養成(県)



デジタルサイネージ設置(立山駅)



登山道における看板の多言語化、デザイン統一

◎ 推進体制

- 立山黒部貫光(株)を中心に、多言語表記・案内に係る指針を策定し、立山黒部の統一的な対応を推進する。

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<事務局> 立山黒部貫光(株)

<関係者> 黒部峡谷鉄道(株)、関西電力(株)、富山県道路公社、立山山荘協同組合、富山地方鉄道(株)、環境省、富山県、黒部市、立山町 など

◎ スケジュールイメージ

H29.6

H30.4

H31.4

指針の策定

指針に沿った対応の推進

<検討事項(例)>

- 多言語表記・案内の現状整理
- 先進事例の研究 など

15 携帯電話不通エリア、WiFi未整備エリアの解消

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 携帯での観光情報の提供
- 散策時の利便性・満足度向上
- 利用者の安全確保

◎ 第2回会議で提案された解決例

- 携帯電話利用可能エリア拡大の働きかけ
- Wi-Fiアクセスポイント設置の促進

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 電話やWi-Fiが繋がらないエリアについては、利用者の安全で快適な散策のために、**電話やWi-Fiの整備が必要**ではないか。
- 全てのエリアで電話やWi-Fiが繋がらない状態を解消するのではなく、緊急時の連絡手段の確保のため要所での整備を行うなど、**範囲を決めて整備すべき**ではないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○ワーキンググループにおいて、実現に向けた検討を進める。

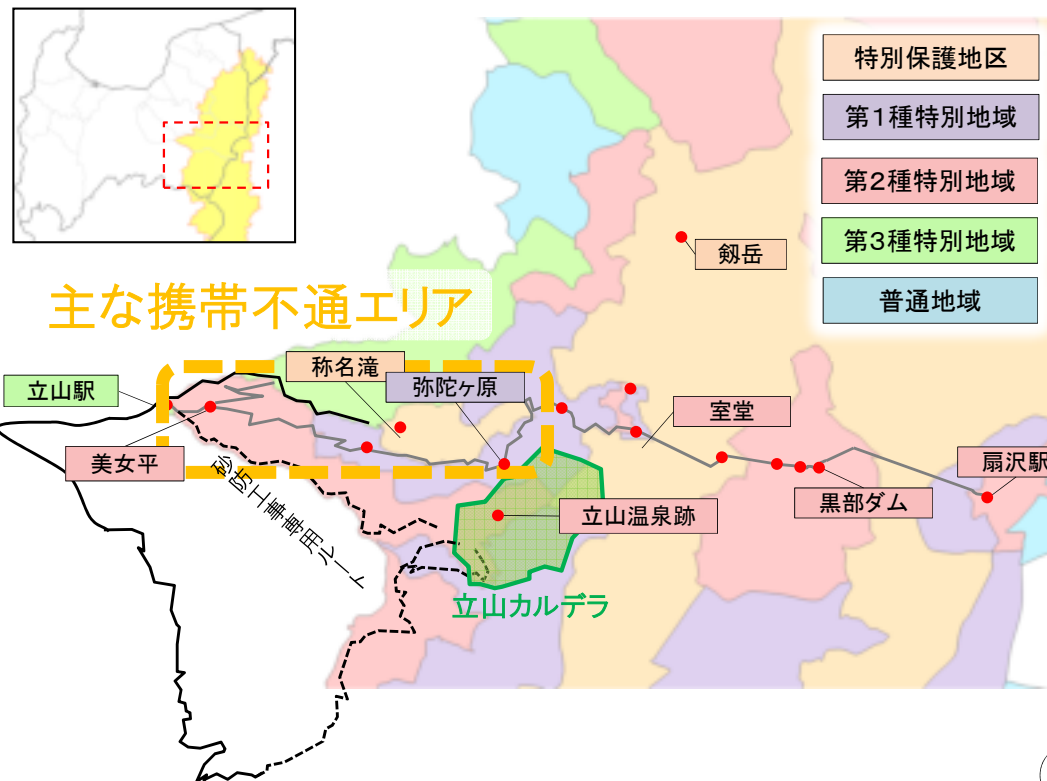
中長期

<今後の検討内容(例)>

- ・通信インフラ(電源、光ケーブル等)の確保



弥陀ヶ原のハイキング



◎ 推進体制

- 富山県を中心に、WGを開催。
- まずは整備範囲を検討したうえで、通信インフラの確保も含めた課題を洗い出し、実現に向けた調査・研究を進める。

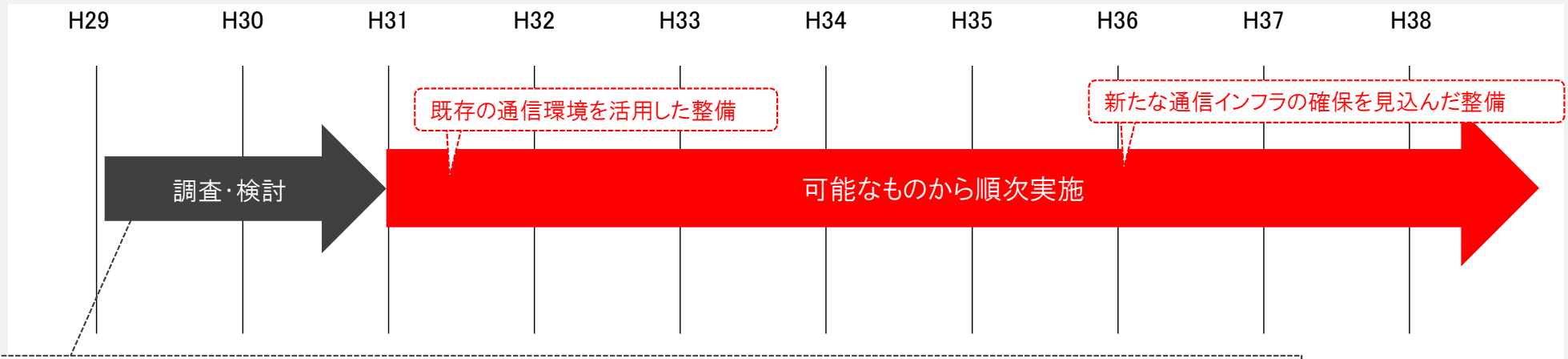
<事務局> 富山県

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<WGメンバー> 立山黒部貫光(株)、立山山荘協同組合、国土交通省立山砂防事務所、環境省、富山県、立山町

<関係者> 富山県道路公社、NTT西日本、携帯キャリア、北陸電力(株) など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- 整備範囲の整理
- 通信インフラ(光ケーブル、商用電源)の確保手段(施工方法、費用負担、投資回収の見込み等)
- 関係省庁への許認可手続きも含め、実現可能性のある整備方法の調査、研究 など

16 ユニバーサルサービスの推進

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 魅力的だが、健脚でなければ楽しめない観光素材
- 国内外からの個人旅行者の増加に対応した受け入れ環境の整備

◎ 第2回会議で提案された解決例

- 称名滝までの電気バスの運行を検討
- アルペンルート、室堂～みくりが池周辺のユニバーサルデザイン化
- 宇奈月温泉街～黒部峡谷鉄道のユニバーサルデザイン化

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- ユニバーサルサービスは、観光地として取り組むべき基本的なものであるため、積極的に推進すべきである。
- 立山町において、称名滝に向かう電気自動車運行の実証運行を行ったところ、好評を得たが、電気バスの運行の実現については、コストなど課題がある。
- 登山口でもある称名滝へのアクセス道路の渋滞緩和のため、立山駅周辺地域の交通の在り方についての見直しが必要。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○事業者と行政が連携し、可能なものから順次、ユニバーサルデザイン化を進める。

短期

- <今後の検討内容(例)>
- ・室堂、みくりが池周辺の石畳整備
 - ・宇奈月温泉駅のエレベーター設置
 - ・称名滝までのアクセス整備
 - ・立山駅周辺地域の交通の在り方の検討

《平成29年度の取り組み》

○宇奈月温泉駅のエレベーター設置(事業者)



富山地方鉄道宇奈月温泉駅

◎ 推進体制

- 事業者と行政が連携し、ユニバーサルサービスの推進に取り組む。

<事務局> 富山県 下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者> 立山黒部貫光(株)、黒部峡谷鉄道(株)、関西電力(株)、立山山荘協同組合、富山地方鉄道(株)、環境省、黒部市、立山町 など

◎ スケジュールイメージ



- <検討事項(例)>
- 利用者ニーズ、改善箇所等の洗い出し
 - 観光客へ向けたバリアフリー情報の発信 など

上質な滞在環境の整備（P4～16）

- 01 混雑スポットにおける食事・休憩スペースの拡充
- 02 アルペンルートでの営業時間拡大
- 03 乗車整理券の配布
- 04 高原バス等のWEB予約システム
- 05 宿泊施設の整備
- 06 滞在プログラムの充実

新しい魅力の発掘・磨き上げ（P18～34）

- 07 アルペンルートの早期開業
- 08-09 冬季営業（アルペンルート、黒部峡谷鉄道）
- 10 ヘリスキーの企画・実施
- 11 黒部ルート見学会の旅行商品化
- 12 カルデラ体験学習会の旅行商品化

顧客層にあわせた受入環境の整備（P36～43）

- 13 新しいマーケット（欧米豪）での認知度向上
- 14 多言語表記・案内の充実
- 15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消
- 16 ユニバーサルサービスの推進

周遊性の確保（P45～49）

- 17-19 ロープウェイの整備
- 20 宇奈月温泉街の賑わい創出

自然環境の適正利用（P51～55）

- 21 登山道の整備
- 22 環境意識の啓発

自然環境の保全（P57～64）

- 23 山岳トイレの整備
- 24 外来植物除去活動の推進
- 25 利用調整地区の導入の検討
- 26 環境保全経費の受益者負担の在り方の検討

ライチョウの保全（P66～67）

- 27 とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査

利用者の安全確保（P69～72）

- 28-1 雪崩事故対策
- 28-2 火山対策

17~19 ロープウェイの整備

◎これまでの議論

◎ 第2回会議で提案された解決例

立山と黒部(宇奈月)、そして立山カルデラ(有峰)を結び富山をダイナミックに周遊できるルートを構築

19「黒部峡谷ロープウェイ」の建設

17「立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」の建設

18「立山カルデラロープウェイ」の建設



◎ 第1回会議で出された課題

- 新たな周遊観光ルートの開発
- 自然景観、産業遺産、冬の魅力の活用
- ボトルネックの解消
- 通年営業の実現

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 通過型ではなく、周遊・滞在型の旅行を推進していくには、立山・黒部・立山カルデラといった隣接地域を結ぶルート構築が必要不可欠ではないか。
- ヨーロッパでは、ロープウェイは環境負荷の少ない交通手段として知られており、上手く作ることによって景観を害さず、活かすことができる。
- ロープウェイの新設は、景観や植生への影響が懸念され、ハードルが極めて高い。
- ロープウェイの新設は、既存の交通手段との代替として考えるべき。
- ロープウェイの新設は、公園利用計画の位置付け(中央環境審議会の答申)が必要。

17~19 ロープウェイの整備②

◎ 検討会 中間とりまとめ

17「立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」の建設

- ・ 立山ケーブルカー等のボトルネック解消に大きな効果が見込まれる。
- ・ 自然環境への配慮として、植生を傷めない形でのロープウェイ整備の方法の検討が必要。
※例えば、植生を潰すのではなく、既に開発されている道路、駐車場等にロープウェイの支柱の設置等
- ・ より環境負荷の少ない交通手段として、既存の交通手段(ケーブルカー・バス等)との代替可能性、採算性等の検討が必要。

18「立山カルデラロープウェイ」の建設

- ・ 弥陀ヶ原ロープウェイと異なり、想定するルート上や乗り場までのアクセスルートが無いいため、ロープウェイ建設による環境への影響は極めて大きい。

19「黒部峡谷ロープウェイ」の建設

- ・ 貴重な植生と景観を有する地域(特別保護地区)であり、想定するルート上には、開発されている道路等が無いいため、設置工事による環境への影響は極めて大きい。

○ワーキンググループにおいて、まずは、「立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」の建設について、調査・研究を行う。

短・中期



弘法(現在、県有の山岳トイレが設置されている)
(出所) Google earthをもとに作成



(出所) Google Mapをもとに作成 46

◎ 推進体制

- 富山県を中心に、WGを開催。
- 「立山～弥陀ヶ原ロープウェイ」について、建設に係る経費や工期・採算性、環境等に配慮した建設方法、法令上の規制への対応などの調査・研究を進める。

<事務局> 富山県

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<WGメンバー> 立山黒部貫光(株)、関西電力(株)、国土交通省、観光庁、環境省、富山県、黒部市、立山町

<関係者> 文化庁、林野庁、富山県道路公社、北陸電力(株) など

◎ スケジュールイメージ

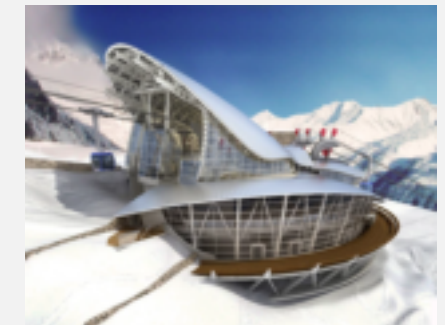
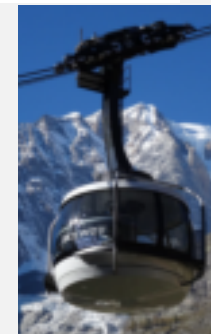
H29 H30 H31 H32 H33

建設コストや採算性、環境への影響などの課題が解決できた場合、整備

調査・研究、整備の検討

<検討事項(例)>

- ターミナルや宿泊施設との一体的な整備
- 建設に係る経費や工期・採算性
- 環境等に配慮した建設方法
- 法令上の規制への対応 など



(出所) Funivie Monte Bianco S.p.A. HP

20 宇奈月温泉街の賑わい創出

◎これまでの議論

◎ 課題・論点

- まち歩きしなくなる環境整備
- 冬季の魅力創出



宇奈月温泉街(昼) 宇奈月温泉街(夜)

◎ 委員提案の解決例

- 昼・夜、季節を問わずまち歩きを楽しめる温泉街へ
- 宇奈月公園の散策路等整備
- マップ・観光案内板の整備
- ガイドマニュアルの作成・ガイドの育成
- 旅館ホテルの夜間景観形成
- 冬の温泉街を楽しむことができる仕掛けづくり

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- **宇奈月温泉街にもっと人が出歩くための仕掛けを作るべき。**
- 宇奈月温泉街の賑わい創出には、ハード整備の取り組み以上に、**地元の熱意や、ソフト面での質の向上が重要**ではないか。
- 旅館は、お客を囲い込むのではなく、**宇奈月全体で消費してもらうような考え方**をして欲しい。
- 宿泊者の多様化するニーズに対応するため、**泊食分離など宿泊形態の多様化も検討すべき**ではないか。
- 立山黒部が欧米豪の方に支持される観光地となるには、情報発信だけでなく、**目的地としてのクオリティを高める取り組みも必要**ではないか。
- 潰れた旅館は更地にして、駐車場などにすべきではないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○黒部市観光振興計画(H29.3策定)、宇奈月温泉まちなか賑わい創出プラン(H28.12策定)をもとに、温泉街の魅力向上と環境整備を進める。

短期

<今後の検討内容(例)>

- ・ まち歩きしなくなる環境整備、美しい景観の形成
- ・ 冬季の観光は落ち込む傾向があるため、黒部市の冬の観光素材を発掘し、魅力創出とストーリー化を通じて、「**冬こそ黒部・宇奈月**」といえるような通年観光につなげる。



宇奈月らしさ(燈火、螢・月(幻想的、幽玄))を表出する共通素材、意匠の灯具による夜間景観形成 (出所)宇奈月温泉まちなか賑わい創出プラン

《平成29～30年度の取り組み》

○「宇奈月温泉まちなか賑わい創出プラン」に基づく取り組み

◎ 推進体制

- 黒部市を事務局とした「宇奈月温泉まちの未来創造モデル事業実行委員会」が中心となり、温泉街の魅力向上と環境整備を推進。

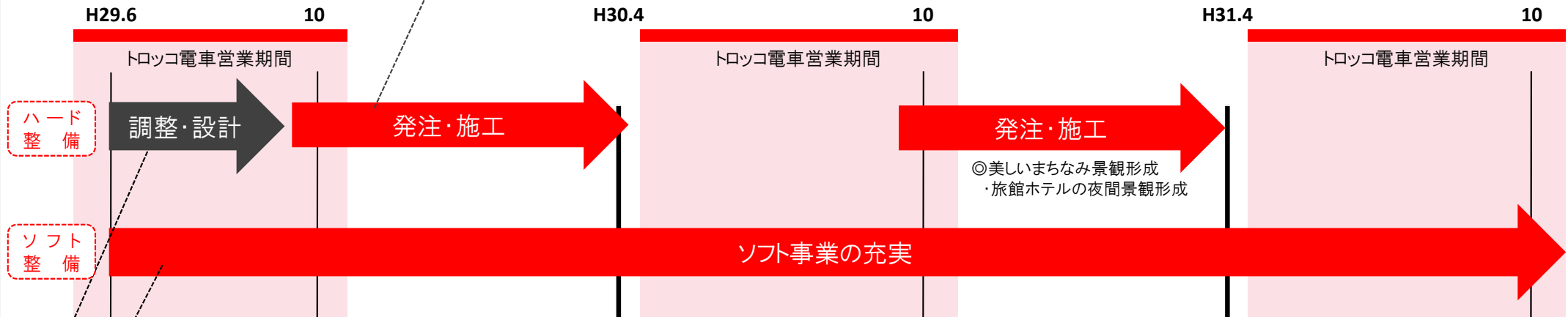
<事務局> 黒部市

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者> 宇奈月温泉まちの未来創造モデル事業実行委員会 (黒部峡谷鉄道(株)、関西電力(株)、黒部市 など)、宇奈月温泉旅館協同組合、富山県 など

◎ スケジュールイメージ

- ◎まち歩きしなくなる環境整備
 - ・宇奈月公園散策路等の整備
 - ・温泉街街路灯の改修
 - ・観光案内板の整備、まち歩きマップの活用
- ◎美しいまちなみ景観形成
 - ・旅館ホテル、温泉噴水などの夜間景観形成



<検討事項(例)>

- 景観形成ガイドラインの作成
- 通年観光に向けたイベント等の開催
- ガイドの育成 など



賑わう宇奈月温泉街

上質な滞在環境の整備 (P4~16)

- 01 混雑スポットにおける食事・休憩スペースの拡充
- 02 アルペンルート of 営業時間拡大
- 03 乗車整理券の配布
- 04 高原バス等のWEB予約システム
- 05 宿泊施設の整備
- 06 滞在プログラムの充実

新しい魅力の発掘・磨き上げ(P18~34)

- 07 アルペンルート of 早期開業
- 08-09 冬季営業(アルペンルート、黒部峡谷鉄道)
- 10 ヘリスキー of 企画・実施
- 11 黒部ルート見学会 of 旅行商品化
- 12 カルデラ体験学習会 of 旅行商品化

顧客層にあわせた受入環境の整備(P36~43)

- 13 新しいマーケット(欧米豪)での認知度向上
- 14 多言語表記・案内 of 充実
- 15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリア of 解消
- 16 ユニバーサルサービスの推進

周遊性の確保(P45~49)

- 17-19 ロープウェイ of 整備
- 20 宇奈月温泉街 of 賑わい創出

自然環境の適正利用(P51~55)

- 21 登山道 of 整備
- 22 環境意識 of 啓発

自然環境の保全(P57~64)

- 23 山岳トイレ of 整備
- 24 外来植物除去活動 of 推進
- 25 利用調整地区 of 導入の検討
- 26 環境保全経費 of 受益者負担の在り方の検討

ライチョウの保全(P66~67)

- 27 とやま of ライチョウサポート強化、生息状況調査

利用者の安全確保(P69~72)

- 28-1 雪崩事故対策
- 28-2 火山対策

21 登山道の整備

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 木道などの老朽化
・「歩くアルペンルート」など、整備から20年程度経過し、老朽化している。
- 訪日旅行者への対応
- 魅力的な散策ルートの整備

◎ 第2回会議で提案された解決例

- 登山道の整備・更新
・例えば、歩くアルペンルートの再整備、弥陀ヶ原～大日平にあった吊橋の復元整備など
- 案内看板の更新(多言語)
- 県民協働による登山道の整備

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 歩くアルペンルートなど、素晴らしいトレッキングコースではあるが、老朽化が目立ち、**登山道の整備・更新が必要**ではないか。
- 増加している訪日旅行者に対応するため、登山道の案内看板等の**多言語表記・案内の充実が必要**ではないか。
- 登山道には、行政が管理していないものがあり、**安全確保や維持の仕組みの検討が必要**。
- 欧米豪の旅行者が増えているが、自然の奥深さを見に来ているので、更なる保全が必要。期待に応えるには、保全活動や維持管理の財源確保など、**世界レベルの仕組みを導入していくべき**ではないか。
- 利用者の安全性、利便性向上のため、ルートごとのコース番号の設定や、一定距離ごとのナンバリングなど、**緊急時に情報伝達しやすい仕組みを導入すべき**ではないか。



老朽化した木道(スリップ事故多発)



弥陀ヶ原のハイキング

(出所)Google earthをもとに作成

21 登山道の整備②

◎ 検討会 中間とりまとめ

○事業者と行政、その他関係者が連携し、登山道などの補修、多言語化などの整備・更新を進めるとともに、ニーズの見込まれる欧米豪を中心に国内外の旅行者等に対して、立山のトレッキングの魅力を強力に展開する。

短期

○ワーキンググループにおいて、「歩くアルペンルート^①の再整備」や「弥陀ヶ原～大日平の吊橋復元」といった、魅力的で周遊性の高いルート構築を目指す。

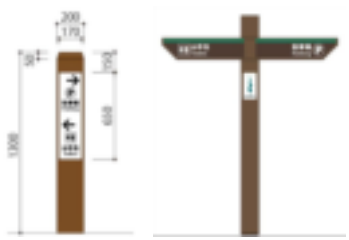
中期

《平成29年度の取り組み》

○立山黒部外客対応施設等整備事業(県)

歩くアルペンルート・弥陀ヶ原等において、案内看板・道標等の再整備と多言語化、登山道等のクオリティアップを実施

○看板の多言語化、デザイン統一(環境省)



登山道における看板の多言語化、デザイン統一

(出所) Google earthをもとに作成

◎ 推進体制

- 富山県を中心に、WGを開催する。
- 「弥陀ヶ原～大日橋の吊橋復元」といった、魅力的で周遊性の高いルートの構築について検討を進める。
- 山小屋等の意見を聞きながら、案内看板・道標等の再整備と多言語化、登山道等のクオリティアップを実施する。

<事務局> 富山県

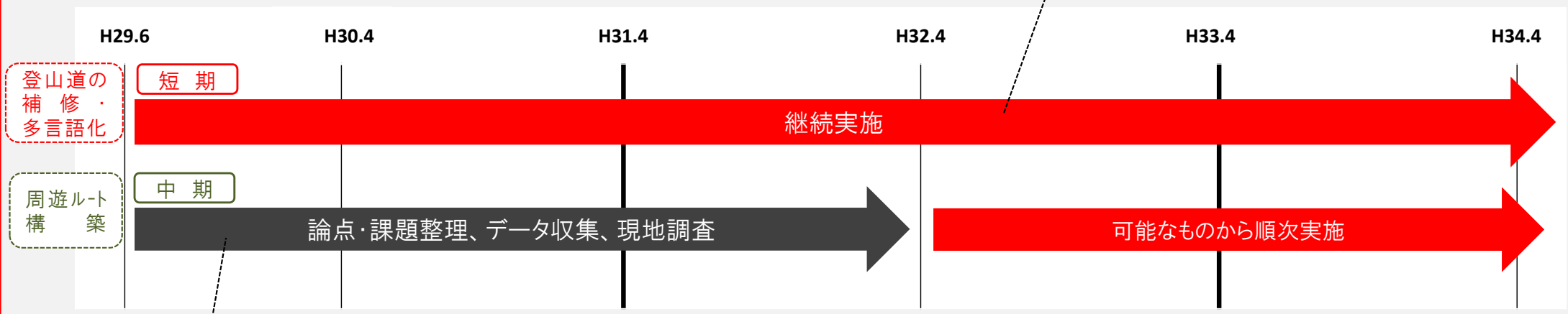
下線部 は、プロジェクトの実施主体

<WGメンバー> 立山山荘協同組合、環境省、黒部市、立山町

<関係者> 富山市、上市町 など

- <継続実施>
- 国の事業(直轄事業や交付金事業)を活用した計画的な実施
 - 登山道の整備・更新(木道の補修等)
 - 案内看板・道標等の再整備と多言語化(デザイン統一)
 - 県民協働による登山道の整備

◎ スケジュールイメージ



- <検討事項(例)>
- 魅力的で周遊性が確保できるルート設定のために、古道や行政が管理していない登山道などの整理
 - 「歩くアルペンルートの再整備」や「弥陀ヶ原～大日平の吊橋復元」といった、魅力的で周遊性の高いルートの構築の実現可能性

22 環境意識の啓発

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 訪日旅行者への啓発
 - ライチョウ観察等、自然散策時のマナー周知
- ・例えば、ライチョウの写真撮影等のために、植生に足を踏み入れる利用者がいる。



ライチョウの撮影をする観光客

◎ 第2回会議で提案された解決例

- ビジターセンターのリニューアル
・ビジターセンター(立山自然保護センター、称名平休憩所)
- 外国語が堪能なナチュラルリストの養成
- ライチョウ生息域での「利用調整地区」の導入検討
・指定区域の散策に対して、一定の立ち入り制限を設定(立ち入り人数・時間・期間の制限、登録引率者が同行する場合のみ立ち入り許可、事前レクチャーの義務化等)

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 保全と適正利用の両立を図っていくことが、結果として利用者の高い評価や満足度向上にも繋がる場合がある。
保全と利用を一体的に考えながら、環境意識の啓発をさらに推進すべき。
- 質の高いガイドツアーは、環境保全の啓発の役割も担うことができる重要な取り組みではないか。
- 公園利用者に、どのようにルールを遵守していただくかが重要。事前にしっかりルールを伝えた上で、ルール違反に対しては、厳しく対応することも必要ではないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

- 事業者と行政、その他関係者が連携し、訪日旅行者等に対する環境意識の啓発を推進する。
- エコツアーの企画・実施を通じて、旅行者への環境意識の啓発を推進する。

短期

《平成29年度の取り組み》

- ナチュラルリスト養成・外国人対応推進事業(県)
 - ・ 訪日旅行者の特性やニーズ、受入の注意点等に関する講義を実施
 - ・ 多言語自然解説ガイドの作成



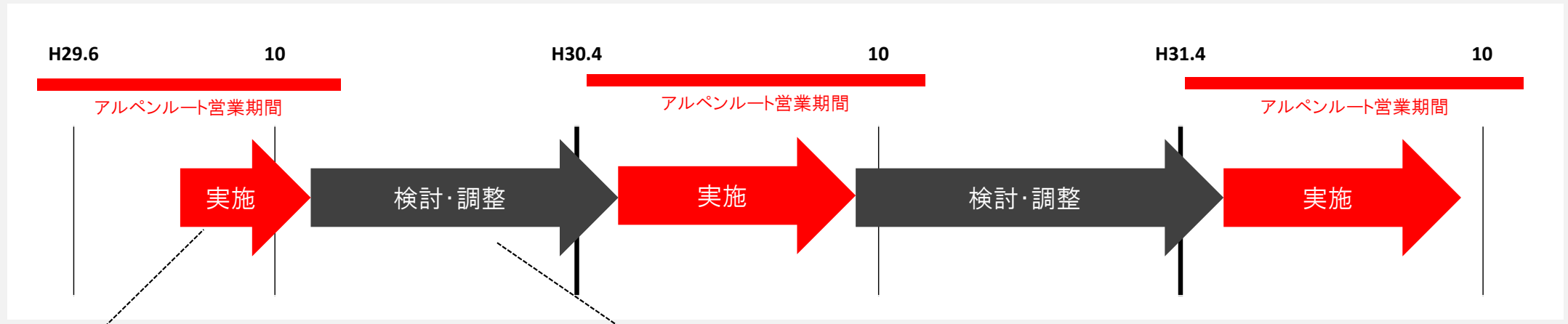
◎ 推進体制

- 富山県を中心に、事業者、その他関係者とも連携し、訪日旅行者や県内外からの来訪者に対する環境意識の啓発を推進する。

<事務局> 富山県 下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者> 立山黒部貫光(株)、黒部峡谷鉄道(株)、関西電力(株)、環境省 など

◎ スケジュールイメージ



- <H29実施内容>
- 訪日旅行者に対応できるナチュラリストの養成
 - 多言語自然解説ガイドの作成
 - ナチュラリストやライチョウサポート隊によるライチョウ観察、マナーの周知

- <検討事項(例)>
- すでに実施している事業の効果の検証
 - 意見交換、課題の洗い出し
 - 新たな取り組みや効果的な取り組みの検討 (ビジターセンターにおける訪日外国人対応) など

上質な滞在環境の整備 (P4~16)

- 01 混雑スポットにおける食事・休憩スペースの拡充
- 02 アルペンルート of 営業時間拡大
- 03 乗車整理券の配布
- 04 高原バス等のWEB予約システム
- 05 宿泊施設の整備
- 06 滞在プログラムの充実

新しい魅力の発掘・磨き上げ(P18~34)

- 07 アルペンルート of 早期開業
- 08-09 冬季営業(アルペンルート、黒部峡谷鉄道)
- 10 ヘリスキー of 企画・実施
- 11 黒部ルート見学会 of 旅行商品化
- 12 カルデラ体験学習会 of 旅行商品化

顧客層にあわせた受入環境の整備(P36~43)

- 13 新しいマーケット(欧米豪) of 認知度向上
- 14 多言語表記・案内 of 充実
- 15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリア of 解消
- 16 ユニバーサルサービスの推進

周遊性の確保(P45~49)

- 17-19 ロープウェイ of 整備
- 20 宇奈月温泉街 of 賑わい創出

自然環境の適正利用(P51~55)

- 21 登山道 of 整備
- 22 環境意識 of 啓発

自然環境の保全(P57~64)

- 23 山岳トイレ of 整備
- 24 外来植物除去活動 of 推進
- 25 利用調整地区 of 導入の検討
- 26 環境保全経費 of 受益者負担の在り方の検討

ライチョウの保全(P66~67)

- 27 とやま of ライチョウサポート強化、生息状況調査

利用者の安全確保(P69~72)

- 28-1 雪崩事故対策
- 28-2 火山対策

23 山岳トイレの整備

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

○旧式トイレの更新

- ・環境配慮型トイレの整備推進
- ・訪日旅行者に対応した洋式トイレへの移行

○積雪期のトイレ環境の改善

- ・積雪期のキャンプ場はトイレも閉鎖され、し尿による環境汚染が懸念

◎ 第2回会議で提案された解決例

○環境配慮型トイレ、洋式トイレの整備

- ・県有トイレの更新、山小屋所有トイレの更新の移行支援

○積雪期に使える「高床式トイレ」の整備

- ・積雪期に、スキー客等の利用が見込まれる「雷鳥沢キャンプ場」に、積雪でも利用可能な高床式トイレを設置



和式の汲取り式トイレ



積雪期の雷鳥沢キャンプ場

◎ 委員からの主な意見

○立山のトイレについては、かなり環境配慮型トイレが整備されたように思う。

次のステップとして、環境配慮の問題から、洋式化やウォシュレットといった快適さを求める時代に入ってきているのではないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○事業者と行政が連携し、山岳トイレの整備状況を調査しながら、可能なものから順次、整備を進める。

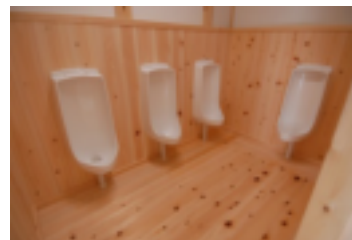
短期



環境配慮型トイレ(県有トイレ)



洋式トイレ(県有トイレ)



改修された山小屋のトイレ

中部山岳国立公園内のトイレ整備状況

(単位:箇所)

		H25	H26	H27	
中部山岳 国立公園 内トイレ 整備状況	全体数	79			
	環境配慮型 トイレ数	新規	2	1	0
		整備済	55	57	57
		整備済計	57	58	58
整備率		72.2%	73.4%	73.4%	

◎ 推進体制

- 事業者と行政が連携し、山岳トイレの整備状況を調査しながら、可能なものから順次、整備を進める。

下線部 は、プロジェクトの実施主体

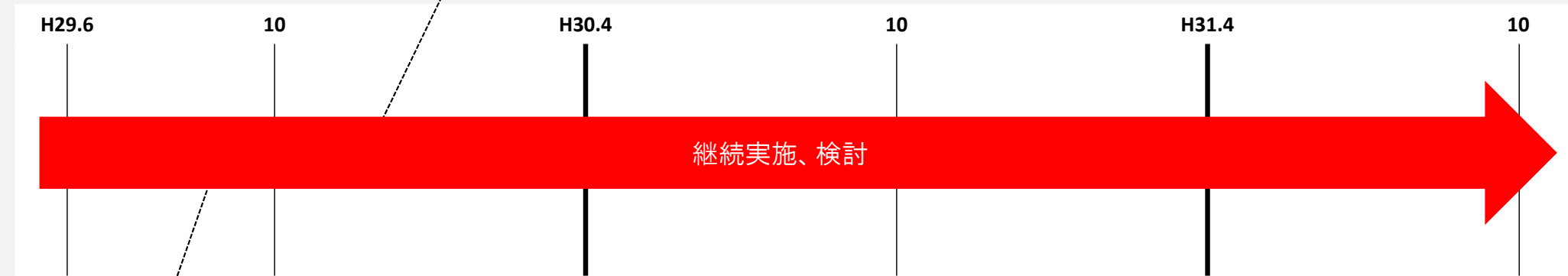
<事務局> 富山県

<関係者> 立山山荘協同組合、環境省、富山市、黒部市、立山町、上市町、
立山黒部環境保全協会 など

◎ スケジュールイメージ

<継続実施>

- 環境配慮型トイレへの更新
- 訪日旅行者に対応した洋式トイレへの移行



<検討事項>

- 積雪期に使えるトイレの整備の検討

24 外来植物除去活動の推進

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

○外来植物の進入・拡散の抑制

・観光客や登山者、車両が運搬する「外来植物」の除去活動には限界があるが、少しでも進入・拡散を抑制するための取り組みが必要。

○除去活動の担い手・資金の不足

・これまでボランティアを中心とした除去活動が行われてきたが、指導者・参加者の高齢化、活動経費の捻出が課題。

◎ 第2回会議で提案された解決例

○指導者の育成(外国人にも対応)

○次世代を担う人材の確保

・これまで参加の少なかった、ファミリー層(親子)の参加を促し、活動の裾野を広げる。



水際対策／桂台料金所でのタイヤ洗浄
(タイヤに付着した外来植物の種子の除去)

◎ 委員からの主な意見

○保全と適正利用の両立を図っていくことが、結果として利用者の高い評価や満足度向上にも繋がる場合がある。

保全と利用を一体的に考えながら、外来植物除去活動をさらに推進すべき。

◎ 検討会 中間とりまとめ

事業者と行政、その他関係者が連携し、

○積極的に外来植物除去活動を推進。

○ボランティアだけでなく、旅行者も保全プログラムに参加しやすい仕組みを検討。

短期

<今後の検討内容(例)>

・外来植物除去に関する検討会を作り、緊急度や重点地域を決めながら計画的に活動を推進。

・持続可能な保全活動のありかたについて、検討を進める。

《平成29年度の取り組み》

○次世代を担う子育て世代の参加促進(県)

・子育て世代のファミリーを対象とした外来植物除去体験。
(弥陀ヶ原地内)



◎ 推進体制

- 事業者と行政、その他関係者が連携し、ボランティアによる外来植物除去活動を積極的に実施するとともに、旅行者も保全プログラムに参加しやすい仕組みを検討する。

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<事務局>

富山県

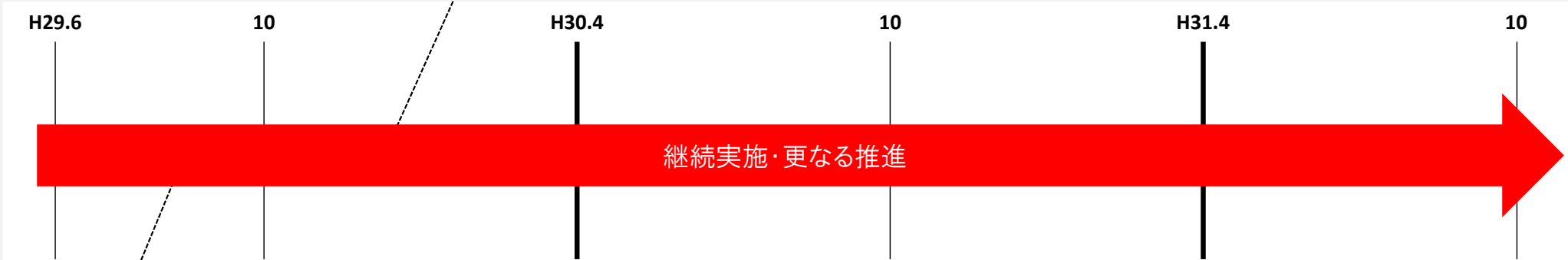
<関係者>

立山山荘協同組合、県ナチュラリスト協会、環境省、黒部市、立山町 など

◎ スケジュールイメージ

<継続実施>

- タイヤに付着した種子の除去
- ボランティアを中心とした除去活動
- 立山アルペンルート外来植物モニタリング調査の計測



<検討事項(例)>

- 緊急度や重点地域を決めながら計画的に活動を推進するための検討
- 持続可能な保全活動のあり方について検討

25 利用調整地区の導入の検討

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 将来を見据えた植生の保全・適正利用の枠組み
- 個人旅行者の増加に対応した、滞在プログラムの充実

◎ 第2回会議で提案された解決例

○「利用調整地区」の導入検討

- ・環境保全、安全確保等の観点から、指定区域に対して、一定の立ち入り制限を設定。
(立ち入り人数、時間、期間の制限、ガイドが同行する場合のみ立ち入り許可、事前レクチャーの義務化等)
- 指定地区に、散策拠点を整備
・ビジターセンターやツアーデスク、レクチャールームといった機能を整備。

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 保全と適正利用の両立を図っていくことが、結果として利用者の高い評価や満足度向上にも繋がる場合がある。
保全と利用を一体的に推進できる枠組みが必要ではないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○ワーキンググループにおいて、将来を見据えた保全と適正利用の在り方について検討を進める。

利用調整地区については、保全と適正利用の両立のひとつの手段として検討。

中期

<今後の検討内容(例)>

- ・例えば、積雪期において、ライチョウ保護を目的に、ライチョウの生息域への立ち入りには、事前レクチャーを必須とするなどの条件を検討。
- ・例えば、スキーヤーを対象に、設定範囲での滑走の場合には、ガイド同行を条件にするなど、適正利用・満足度向上・安全確保にも資する利用の枠組みを検討。



安定的に生息しているライチョウ



特別保護地区に指定されている弥陀ヶ原
(ラムサール条約登録湿地)

◎ 推進体制

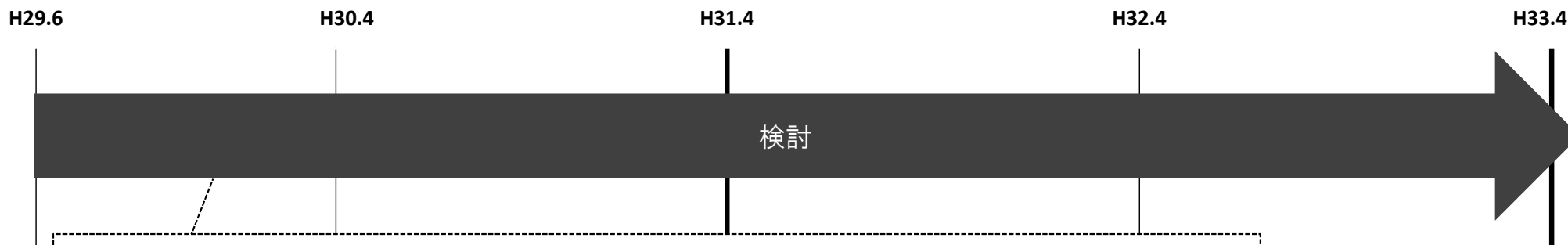
- 富山県を中心に、WGを開催する。
- 将来を見据えた保全と適正利用のあり方について検討を進める。
- 利用調整区域については、保全と適正利用の両立のひとつの手段として検討する。

<事務局> 富山県

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<WGメンバー> 立山黒部貫光(株)、黒部峡谷鉄道(株)、立山山荘協同組合、環境省 など

◎ スケジュールイメージ



<検討事項(例)>

- 環境保全、安全対策等の観点から、一定の立入制限の設定が必要な場所などを整理（場所、立入り人数、時間、期間の制限など）
- 積雪期において、ライチョウ保護を目的にライチョウの生息域への立入には、事前レクチャーを必須とするなどの条件
- スキーヤーを対象に設定範囲での滑走の場合には、ガイド同行を条件にするなど、適正利用・満足度向上・安全確保にも資する枠組み など

26 環境保全経費の受益者負担の在り方の検討

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

○持続可能な保全と利用の仕組みの確立

- ・これまでの保全活動は多くの方のボランティア(善意)を中心に展開されている。
- ・自然が保たれているおかげで観光地としての魅力につながっていることから、「保全するために稼ぐ」、また「稼ぐために保全する」体制が必要。

◎ 第2回会議で提案された解決例

○アルペンルート内の各事業に環境保全経費を付加し、保全活動の財源を確保

- ・例えば、アルペンルートの輸送料金に環境保全経費を定率付加し、環境保全活動の原資とする。



外来種除去活動



ライチョウ保護柵の設置

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

○登山道には、行政が管理していないものがあり、**安全確保や維持の仕組みの検討が必要**。

○欧米豪の旅行者が増えているが、自然の奥深さを見に来ているので、更なる保全が必要。期待に応えるには、保全活動や**維持管理の財源確保など、世界レベルの仕組みを導入していくべき**ではないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○ワーキンググループにおいて、環境保全活動全体の持続的な仕組みを検討する。

中期



ユニバーサルデザイン化



弥陀ヶ原の木道再整備

◎ 現在の取り組み

○協力金(チップ)による公衆トイレ(山岳トイレ)の維持管理費の軽減

- ・協力金収入を公衆トイレの維持管理費に充当。
- ※平成28年度収入実績 : 約2,400千円



洋式トイレ(県有トイレ)



環境配慮型トイレ(県有トイレ)

◎ 推進体制

- 富山県を中心に、WGを開催し、環境保全活動全体の持続的な仕組みを検討する。

<事務局> 富山県

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<WGメンバー> 立山黒部貫光(株)、黒部峡谷鉄道(株)、立山山荘協同組合、環境省、黒部市、立山町

<関係者> 立山黒部環境保全協会 など

◎ スケジュールイメージ

<継続実施>

- 協力金(チップ)による公衆トイレ(山岳トイレ)の維持管理費の軽減



<検討事項(例)>

- (トイレ以外の)環境保全活動全体の持続的な仕組み
例えば、山岳トイレなどの環境保全や安全対策にあてる入山料(富士山、屋久島) など

上質な滞在環境の整備 (P4~16)

- 01 混雑スポットにおける食事・休憩スペースの拡充
- 02 アルペンルート of 営業時間拡大
- 03 乗車整理券の配布
- 04 高原バス等のWEB予約システム
- 05 宿泊施設の整備
- 06 滞在プログラムの充実

新しい魅力の発掘・磨き上げ (P18~34)

- 07 アルペンルート of 早期開業
- 08-09 冬季営業 (アルペンルート、黒部峡谷鉄道)
- 10 ヘリスキー of 企画・実施
- 11 黒部ルート見学会 of 旅行商品化
- 12 カルデラ体験学習会 of 旅行商品化

顧客層にあわせた受入環境の整備 (P36~43)

- 13 新しいマーケット (欧米豪) of 認知度向上
- 14 多言語表記・案内 of 充実
- 15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリア of 解消
- 16 ユニバーサルサービスの推進

周遊性の確保 (P45~49)

- 17-19 ロープウェイ of 整備
- 20 宇奈月温泉街 of 賑わい創出

自然環境の適正利用 (P51~55)

- 21 登山道 of 整備
- 22 環境意識 of 啓発

自然環境の保全 (P57~64)

- 23 山岳トイレ of 整備
- 24 外来植物除去活動 of 推進
- 25 利用調整地区 of 導入の検討
- 26 環境保全経費 of 受益者負担の在り方の検討

ライチョウの保全 (P66~67)

- 27 とやま of ライチョウサポート強化、生息状況調査

利用者の安全確保 (P69~72)

- 28-1 雪崩事故対策
- 28-2 火山対策

27 とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

ライチョウの絶滅が危惧され、積極的な保護が必要

- 担い手の確保
- 観察ルールの周知、啓発
・特に、増加する訪日旅行者への対応

- 詳しい生息・生態調査の不足

◎ 第2回会議で提案された解決例

- サポーター連携活動
- 立山室堂ライチョウ見守りネット
- 利用調整地区の導入の検討
- ライチョウ生息数調査
- 立山ライチョウ生態調査

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 立山では、ライチョウが広い範囲で安定的に生息しており、これは保護がしっかり行き届いているということだろう。
- 今後、ライチョウの生息や生態調査・研究がもっと進めば、保全しながら、利用の条件も整理されてくるのではないか。

ライチョウの生息数

	S50年代	H20年代
県内	1,300羽	1,300羽
全国	3,000羽	2,000羽

全国でライチョウの生息数が減少する中、富山県のライチョウ生息数は、安定して推移



◎ 検討会 中間とりまとめ

事業者と行政、その他関係者が連携し、

○ライチョウの保全を推進し、また、ライチョウに配慮した適切な利用の在り方を検討するためにも、県内外のサポーター確保や冬季の生息・生態調査を実施。

○ボランティアだけでなく、旅行者も保全プログラムに参加しやすい仕組みを検討。

短期

《平成29年度の取り組み》

- とやまのライチョウサポート強化事業(県)
- ライチョウ緊急連携調査事業(県)
- ・第2次とやまのライチョウサポート隊を結成。長野県等のサポート隊と連携し、保護活動を実施。
- 立山ライチョウ生態調査事業(県)



ライチョウ保護柵の設置



ライチョウ生息数調査

◎ 推進体制

- 富山県を中心に、本県のライチョウ保護活動を多くの者に広めるため、室堂等における各県ライチョウサポート隊との連携内容を検討する。
- 本県のライチョウが安定的に生息しているか、定期的に生息数調査等を行い、保護活動の基礎情報とする。

<事務局>

富山県

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者>

立山黒部貫光(株)、関西電力(株)、環境省、富山雷鳥研究会 など

◎ スケジュールイメージ

<継続実施>

- 連携内容の企画、調整(各県のライチョウサポート隊とさらなる連携内容)
- 主要3山(立山、朝日岳、薬師岳)での継続的なライチョウ生息数や生態等のデータ収集

H29.6

10

H30.4

10

H31.4

10

連携活動実施、検討

<検討事項(例)>

- 保護活動に関する課題の洗い出し(サポート隊員等へのアンケート調査の実施)
- 連携内容の企画、調整(各県のライチョウサポート隊と更なる連携内容)

上質な滞在環境の整備 (P4~16)

- 01 混雑スポットにおける食事・休憩スペースの拡充
- 02 アルペンルートでの営業時間拡大
- 03 乗車整理券の配布
- 04 高原バス等のWEB予約システム
- 05 宿泊施設の整備
- 06 滞在プログラムの充実

新しい魅力の発掘・磨き上げ(P18~34)

- 07 アルペンルートの早期開業
- 08-09 冬季営業(アルペンルート、黒部峡谷鉄道)
- 10 ヘリスキーの企画・実施
- 11 黒部ルート見学会の旅行商品化
- 12 カルデラ体験学習会の旅行商品化

顧客層にあわせた受入環境の整備(P36~43)

- 13 新しいマーケット(欧米豪)での認知度向上
- 14 多言語表記・案内の充実
- 15 携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消
- 16 ユニバーサルサービスの推進

周遊性の確保(P45~49)

- 17-19 ロープウェイの整備
- 20 宇奈月温泉街の賑わい創出

自然環境の適正利用(P51~55)

- 21 登山道の整備
- 22 環境意識の啓発

自然環境の保全(P57~64)

- 23 山岳トイレの整備
- 24 外来植物除去活動の推進
- 25 利用調整地区の導入の検討
- 26 環境保全経費の受益者負担の在り方の検討

ライチョウの保全(P66~67)

- 27 とやまのライチョウサポート強化、生息状況調査

利用者の安全確保(P69~72)

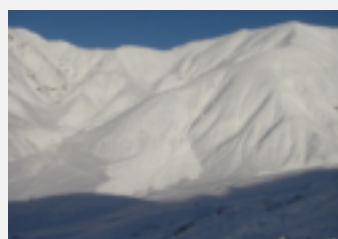
- 28-1 雪崩事故対策
- 28-2 火山対策

28-1 雪崩事故対策

◎これまでの議論

◎ 第1回会議で出された課題

- 登山者・スキーヤーへの注意喚起
- 指導員の不足
・利用者に対して、指導員が足りていない。



H25.11 真砂岳 雪崩状況



H28.11 浄土山 雪崩状況

◎ 第2回会議で提案された解決例

- 立山室堂地区山岳スキー等安全指導要綱による取組強化
- 雪崩危険度情報のスマートフォンアプリによる発信の検討



混雑時の室堂ターミナル(入山届の受付)

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

- 立山の雪の量は非常に魅力的だが、逆にそれだけ危険ということであり、**雪崩事故対策は積極的に推進すべき。**
- 積雪期の利用者の安全を高めるためには、専門性の高いガイドの同行が必要ではないか。
- ライチョウの生態系や雪崩に関する**研究が進めば、冬季の営業期間・営業範囲などの条件も整理される**のではないか。

◎ 検討会 中間とりまとめ

○**富山県山岳遭難対策協議会**において、情報発信の在り方(周知方法)、人材の確保の在り方について検討。

中期

《H29年度の対応》

- 情報発信の検討(富山県山岳遭難対策協議会)
- 混雑時の指導のあり方、雪崩危険度情報の周知方法の検討(立山地区雪崩安全対策研究会)

《富山県山岳遭難対策協議会》

- ・協議会メンバー
富山県、富山警察本部、富山森林管理署、国立登山研修所、富山地方气象台、関西電力、北陸電力、立山山荘協同組合、立山黒部貫光、富山地方鉄道、富山県スキー連盟、富山県道路公社ほか



専用ホームページ (雪崩危険度情報)



積雪断面観測

◎ 推進体制

- **富山県を中心**に、富山県山岳遭難対策協議会において、登山者やスキーヤーに対しての情報発信のあり方（周知方法）や入山指導のための人材確保のあり方について検討する。

<事務局>

富山県

下線部 は、プロジェクトの実施主体

<関係者>

環境省、山岳遭難対策協議会（国立登山研修所、富山地方気象台、立山黒部貫光(株)、立山山荘協同組合、関西電力(株)、北陸電力(株)、立山町、富山県スキー連盟等） など

◎ スケジュールイメージ

<継続実施>

- 立山室堂地区山岳スキー等安全指導要綱による入山届の受理及び指導
- 雪崩危険度情報のスマートフォンアプリによる発信

H29.6

H30.4

H31.4

H32.4

H33.4

H34.4

継続実施、検討

<検討事項(例)>

- 混雑時の指導のあり方、新たな情報発信方法、雪崩危険度情報の周知方法
- 指導員の確保や育成方法

28-2 火山対策

◎これまでの議論

◎ 第1回で出された課題

○弥陀ヶ原(地獄谷)は、噴気活動の活発化・拡大に伴い常時観測火山に追加されたことから、万が一に備えて、観光客や登山者の更なる安全対策が必要。

◎ 委員からの主な意見

※その後のヒアリングも含む

○立山の弥陀ヶ原火山が活発化しているため、火山に対する利用者の安全・安心を確保しながら、利用を考えていく必要がある。

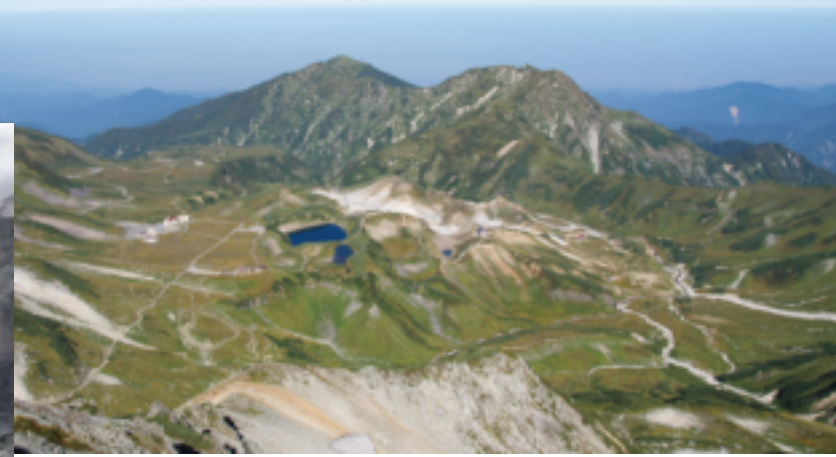
《弥陀ヶ原火山の現状について》

2012年6月以降の観測で、噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されている。
(火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過)

【気象庁「弥陀ヶ原の火山活動解説資料(平成29年1月)」より】



H28.10 弥陀ヶ原火山



(出所)気象庁編「日本活火山総覧(第4版)」

◎ 検討会 中間とりまとめ

弥陀ヶ原火山防災協議会において、

○これまで協議会で実施してきた調査をとりまとめ、**噴火シナリオ**や**火山ハザードマップ**等の作成を進める。

※噴火シナリオ…噴火に伴う現象と及ぼす影響の推移を時系列で示したもの

※火山ハザードマップ…避難等の防災対応をとるべき危険な範囲等を示したもの

短期

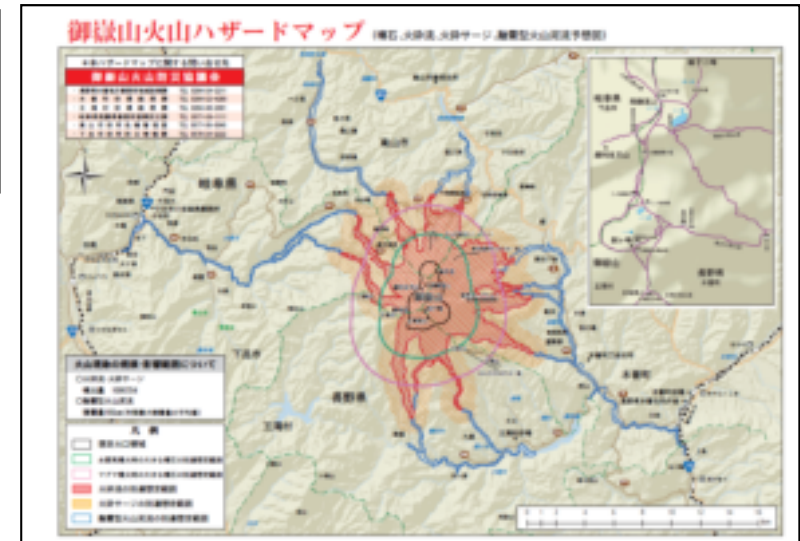
○また、噴火シナリオや火山ハザードマップをもとに、**噴火警戒レベル**の設定や、**避難計画**の策定を進める。

※噴火警戒レベル…噴火活動の段階に応じた入山規制や避難等の防災対応を定めたもの

中期

《協議会メンバー》

富山県、富山警察本部、富山市、上市町、立山町、長野県、大町市、国土交通省、環境省、気象庁、林野庁、国土地理院、陸上自衛隊、NTT西日本、関西電力、立山黒部貫光、立山山荘協同組合、富山県道路公社ほか



(出所)長野県「御嶽山火山ハザードマップ」

◎ 推進体制

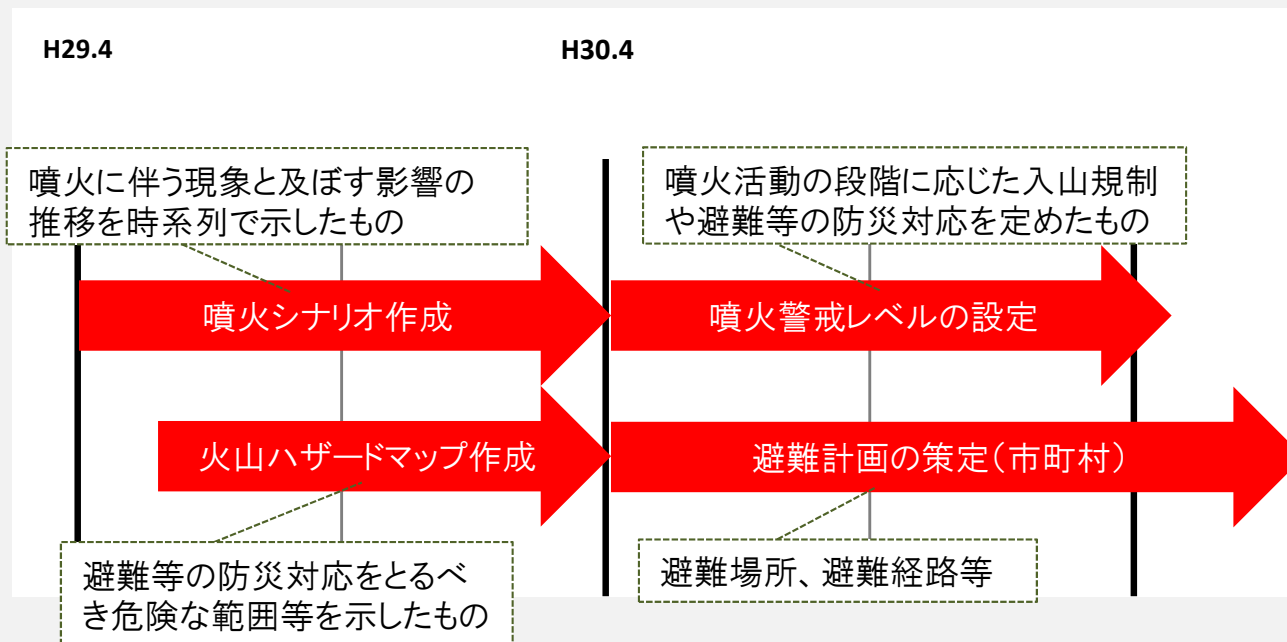
- 平成27年12月施行の改正活火山法に基づき、平成28年2月、県、富山市、上市町、立山町が火山災害警戒地域に指定されたことから、同年3月に法に基づく火山防災協議会(会長:知事)を設置し、防災対策を協議・検討
- 協議会の下に、幹事会及び専門的かつ実務的な検討を行うワーキンググループを設置
- 平成28年12月に気象庁において各種火山観測機器を整備し、弥陀ヶ原を常時観測火山に追加

<事務局> 富山県

<関係者> 弥陀ヶ原火山防災協議会委員

(富山県、富山県警察本部、富山市、上市町、立山町、長野県、大町市、国土交通省、環境省、気象庁、林野庁、国土地理院、陸上自衛隊、富山大学、立山黒部貫光、NTT西日本、関西電力、立山山荘協同組合、富山県道路公社、富山市消防局、富山県東部消防組合、立山町消防本部 など)

◎ スケジュールイメージ



地獄谷



出典:長野県「御嶽山火山ハザードマップ」